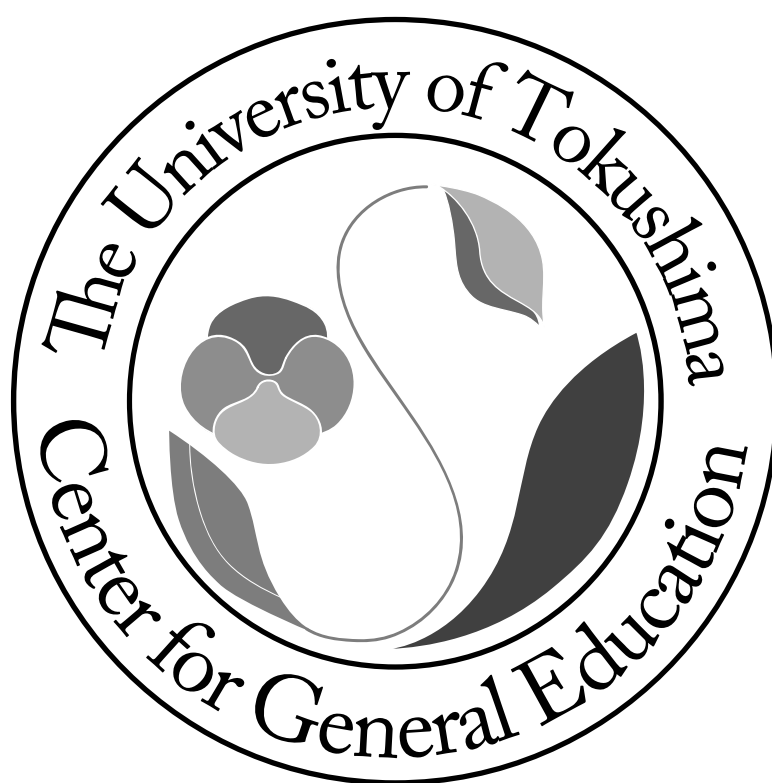


2008（平成20）年度

全学共通教育履修の手引



徳島大学全学共通教育センター

は じ め に

この「履修の手引」には、徳島大学に入学されたみなさんが、全学共通教育で「何をどのように学ぶか」を決めるのに必要な情報が、全て掲載されています。また学生生活を送る上で必要な情報も掲載されています。

徳島大学では、学部学科ごとに「必要とする最低単位数」などの条件が定められています。この条件を満たさないと、進級や卒業ができなくなります。細心の注意をはらってください。

「履修の手引」を熟読し、全学共通教育の概要を述べた「徳島大学全学共通教育 2008 学びのファーストステップ」と、各授業の目的・内容などを収録した「全学共通教育授業概要（シラバス）」を活用し、さらに、オリエンテーション等での説明をよく聞き、担当の先生や事務の方に相談しながら、納得のいく学修計画を立ててください。

みなさんは、若さとエネルギーに溢れています。無限の可能性を秘めています。全学共通教育での学びと学生生活を通して、自らの生き方を求め、新しい知識と能力を習得し、社会の発展に貢献できるよう、切磋琢磨されんことを願っています。

2008 年 4 月

徳島大学全学共通教育センター長
佐 野 勝 徳

掲 示 の 確 認

学生のみなさんへの連絡は、すべて掲示によって行います。少なくとも 1 日 1 回は全学共通教育掲示板を確認するようにしてください。

全学共通教育センターの HP

「履修の手引」や「授業概要（シラバス）」は、全学共通教育センターのホームページ（HP）でも見るができます。「休講情報」、「前後期の試験についての情報」、休講情報は携帯電話からもアクセスできます。

PC から <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ceducom/>

携帯電話から <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ceducom/mobile.cgi>

平成 20 年度 新入生オリエンテーション等日程（学部生用）

学部名 月日・曜日	総合科学部	医 学 部	歯 学 部	薬 学 部	工 学 部
4 月 1 日(火)	13:00～15:00 全学新入生歓迎サークルオリエンテーション（文化団体・体育団体連合会主催 公認サークルの紹介）場所：常三島体育館				
4 月 2 日(水)	学科別オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 10:00 開始時間 10:30 場 所 人間社会学科 301 講義室 自然システム学科 3 号館スタジオ	健康診断 集合時間 開始の30分前 実施時間 医 学 科 14:30～15:30 栄養学科 15:30～16:30 保健学科 13:30～15:00 場 所 保健管理センター (常三島地区)	健康診断 集合時間 15:00 実施時間 15:30～16:30 場 所 保健管理センター (常三島地区)	健康診断 集合時間 12:00 実施時間 12:30～13:30 場 所 保健管理センター (常三島地区)	学科別オリエンテーション・大学入門講座 (全学共通教育及び専門教育の履修について、学生生活について、防災学習について、その他) 集合時間 8:30 開催時間 9:00～17:50 集合場所 建 設 工 学 科 共通講義棟 K402 講義室 機 械 工 学 科 共通講義棟 K407 講義室 化学応用工学科 共通講義棟 K401 講義室 生 物 工 学 科 共通講義棟 K501 講義室 電気電子工学科 共通講義棟 K507 講義室 知能情報工学科 共通講義棟 K502 講義室 光 応 用 工 学 科 共通講義棟 K505 講義室 夜間主コース 集合時間 17:50 開催時間 18:00～21:10 集合場所 共通講義棟 K309 講義室
4 月 3 日(木)	学科別オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 8:50 開始時間 9:00 場 所 人間社会学科 301 講義室 自然システム学科 3 号館スタジオ 健康診断 集合時間 開始の30分前 実施時間 人間社会学科 14:30～16:30 自然システム学科 13:30～14:30 場 所 保健管理センター (常三島地区)	学科別オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 8:50 (医学科) 開催時間 9:00～12:00 場 所 第 2 臨床講堂 (栄養学科) 開催時間 9:00～12:00 場 所 第 1 臨床講堂 (保健学科) 開催時間 9:00～10:30 場 所 青藍講堂 (保健学科各専攻別) 開催時間 11:00～15:00 場 所 保健学科棟講義室	学部オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 8:30 開催時間 9:00～17:00 場 所 歯学部第 1 講義室 (2 階) 履修相談・履修計画立案	学部オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 8:30 開始時間 9:00 場 所 薬学部第 1 講義室 履修相談：履修計画立案	学科別オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 8:20 開催時間 8:30～17:50 集合場所 建 設 工 学 科 高度情報化基盤センター演習室 A, C 機 械 工 学 科 共通講義棟 K304 講義室 化学応用工学科 高度情報化基盤センター演習室 B, D 生 物 工 学 科 共通講義棟創成学習スタジオ 電気電子工学科 共通講義棟創成学習スタジオ 知能情報工学科 共通講義棟創成学習スタジオ 光 応 用 工 学 科 共通講義棟創成学習スタジオ 夜間主コース 集合時間 9:50 開催時間 10:00～21:10 集合場所 建 設 工 学 科 共通講義棟 K301 講義室 機 械 工 学 科 共通講義棟 K304 講義室 化学応用工学科 共通講義棟 K305 講義室 生 物 工 学 科 共通講義棟 K308 講義室 電気電子工学科 共通講義棟 K306 講義室 知能情報工学科 共通講義棟 K307 講義室 健康診断（保健管理センター／常三島地区） 建設工学科、機械工学科、化学応用工学科、夜間主コースは、「オリエンテーション・大学入門講座」の中で行う。
4 月 4 日(金)	学科別オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 8:50 開始時間 9:00 場 所 人間社会学科 301 講義室 自然システム学科 3 号館スタジオ	学科別オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 医学科・栄養学科 開始の30分前 開始の10分前 (医学科) 開催時間 13:00～16:00 場 所 医学部パソコン室 (栄養学科) 開催時間 9:00～12:00 場 所 医学部パソコン室 (保健学科) 開催時間 9:00～16:00 場 所 保健学科棟講義室	学部オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 8:00 開催時間 8:30～18:00 場 所 歯学部第 1 講義室 (2 階) 履修相談・履修計画立案	学部オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 8:30 開始時間 9:00 場 所 薬学部第 1 講義室 履修相談：履修計画立案	学科別オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 8:20 開催時間 8:30～16:30 集合場所 建 設 工 学 科 共通講義棟創成学習スタジオ 機 械 工 学 科 共通講義棟創成学習スタジオ 化学応用工学科 共通講義棟創成学習スタジオ 生 物 工 学 科 共通講義棟 K501 講義室 電気電子工学科 共通講義棟 K507 講義室 知能情報工学科 共通講義棟 K502 講義室 光 応 用 工 学 科 共通講義棟 K505 講義室 夜間主コース 集合時間 16:20 開催時間 16:30～21:10 集合場所 共通講義棟 K309 講義室 健康診断（保健管理センター／常三島地区） 生物工学科、電気電子工学科、知能情報工学科、光応用工学科は、「オリエンテーション・大学入門講座」の中で行う。
4 月 5 日(土)	履修登録予備日 集合時間 8:50 開始時間 9:00 場 所 総合科学部情報実習室	学部新入生研修 集合時間 8:30 開始時間 9:00 場 所 長井記念ホール他		学部新入生研修 集合時間 9:00 開始時間 9:30 場 所 薬学部第 1 講義室 薬学部スタジオ ラザ	
4 月 6 日(日)					
4 月 7 日(月)	徳 島 大 学 入 学 式 9:00 入場開始 10:00 開 式 10:30 終了予定 式場：アスティとくしま				
	学部オリエンテーション・大学入門講座 開催時間 11:00～12:00 場 所 アスティとくしま オリエンテーション終了後 学部新入生研修	学部オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 13:00 開催時間 13:30～15:45 場 所 長井記念ホール 蔵本地区新入生歓迎サークルオリエンテーション（蔵本地区サークルの紹介） 開催時間 15:45～17:30 場 所 各学部オリエンテーション会場	学部オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 13:00 開催時間 13:30～15:00 場 所 歯学部大講義室 (4 階)	学部オリエンテーション・大学入門講座 集合時間 13:30 開始時間 14:00 場 所 薬学部第 1 講義室	学部オリエンテーション・大学入門講座 開催時間 10:40～11:45 場 所 アスティとくしま
4 月 8 日(火)	<全学共通教育の 4 月 8 日(火)の授業の受講申請締切 13:00> 授 業 開 始				

※新入生合宿研修及び大学入門講座についての詳細は、各学部で別途通知する。

2008（平成 20）年度 学年暦及び全学共通教育関係行事予定

年 月 日	学 年 暦	全 学 共 通 教 育 関 係 行 事 予 定
【2008 年】 4 月 1 日(火)	前 期 開 始	
4 月 1 日(火)から 4 月 5 日(土)まで	春 季 休 業	
4 月 2 日(水)から		新入生オリエンテーション(～4 月 7 日) 新 入 生 健 康 診 断 (～ 4 月 4 日) W e b に よ る 受 講 登 録 開 始
4 月 7 日(月)	入 学 式	
4 月 8 日(火)		前 期 授 業 開 始
4 月 11 日(金)		W e b に よ る 受 講 登 録 締 切
4 月 21 日(月)		前 期 履 修 科 目 変 更 締 切
5 月 7 日(水)		月曜日の振替日（月曜日の授業を実施）
5 月 8 日(木)		火曜日の振替日（火曜日の授業を実施）
7 月 12 日(土)		英 語 統 一 試 験 （ T O E I C ）
7 月 18 日(金)		月曜日の振替日（月曜日の授業を実施）
7 月 28 日(月)から 8 月 1 日(金)まで		前 期 試 験 期 間
8 月 2 日(土)から 8 月 31 日(日)まで	夏 季 休 業	
8 月 8 日(金)		追 試 験 願 出 締 切
9 月 1 日(月)		W e b に よ る 前 期 試 験 成 績 通 知
9 月 8 日(月)から 9 月 12 日(金)まで		追 試 験 ・ 再 試 験 期 間
9 月 22 日(月)		W e b に よ る 追 試 験 ・ 再 試 験 の 成 績 通 知
9 月 25 日(木)		W e b に よ る 受 講 登 録 開 始
9 月 30 日(火)	前 期 終 了	
10 月 1 日(水)	後 期 開 始	後 期 授 業 開 始
10 月 6 日(月)		W e b に よ る 受 講 登 録 締 切
10 月 14 日(火)		後 期 履 修 科 目 変 更 締 切 ただし、月曜日授業の締切は 10 月 20 日とする。
11 月 1 日(土)から 11 月 3 日(月)まで	大 学 祭 (11 月 2 日 開 学 記 念 日)	
12 月 25 日(木)から 【2009 年】 1 月 6 日(火)まで	冬 季 休 業	
1 月 7 日(水)		月曜日の振替日（月曜日の授業を実施）
1 月 14 日(水)		月曜日の振替日（月曜日の授業を実施）
1 月 16 日(金)		大学入試センター試験場設営のため休業日
1 月 17 日(土)から 1 月 18 日(日)まで	大 学 入 試 セ ン タ ー 試 験	
1 月 22 日(木)		月曜日の振替日（月曜日の授業を実施）
2 月 4 日(水)から 2 月 10 日(火)まで		後 期 試 験 期 間
2 月 17 日(火)		追 試 験 願 出 締 切
2 月 23 日(月)		W e b に よ る 後 期 試 験 成 績 通 知
2 月 25 日(水)	前 期 日 程 入 学 試 験 （ 予 定 ）	
3 月 2 日(月)から 3 月 6 日(金)まで		追 試 験 ・ 再 試 験 期 間
3 月 12 日(木)	後 期 日 程 入 学 試 験 （ 予 定 ）	
3 月 13 日(金)		W e b に よ る 追 試 験 ・ 再 試 験 の 成 績 通 知
3 月 23 日(月)	卒 業 式 ・ 修 了 式	
3 月 25 日(水)から 3 月 31 日(火)まで	学 年 末 休 業	
3 月 31 日(火)	後 期 終 了	

2008（平成20）年度カレンダー

4

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
...	...	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	...	...	...

5

...	...	...	...	1	2	③
④	⑤	⑥	【7】	《8》	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	...	...	...	...	...

7

...	...	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	【18】	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	...	...

8

...	...	...	...	...	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	...	...	...	...	...	...

9

...	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	⑮	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	...	...	...	...

10

日	月	火	水	木	金	土
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
...	...	...	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	⑬	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	...

11

...	...	...	...	...	...	1
2	③	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	...	...	...	...	...	...

12

...	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	...	...	...

1

...	...	...	...	①	2	3
4	5	6	【7】	8	9	10
11	⑫	13	【14】	15	16	17
18	19	20	21	【22】	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	⑪	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	...	...	...	...

：休業期間

1月16日は大学入試センター試験場設営のため休業

：祝・土・日

11月2日(日)：開学記念日

：学期末試験期間

：追・再試験期間

【 】：月曜日の振替日

11月1日(土)～11日3日(月)：大学祭

《 》：火曜日の振替日

目 次

I. 徳島大学における学びについて	1
1. 全学共通教育の目的	1
2. 大学での学びの全般的な注意	1
II. 全学共通教育の履修 全体にわたる事項	3
1. 単位の基準	3
2. 全学共通教育の開設授業科目	3
3. 特別な単位の認定	7
3. 1. 入学前の既修得単位の認定	7
3. 2. 放送大学の修得単位の認定	7
3. 3. 外国語技能検定試験による単位の認定	7
3. 4. 留学による単位の認定	9
4. 授業の履修手続き	9
4. 1. 履修登録の方法と期間	9
4. 2. 初回授業受講時の注意	10
4. 3. 初回授業以後の履修登録の修正の方法と期間	11
4. 4. 履修登録確認について	12
5. 授業を受ける	13
5. 1. 授 業 の 場 所	13
5. 2. 授 業 の 時 間 帯	13
5. 3. 授業のクラス分け	13
5. 4. 授業を受ける態度	14
5. 5. オフィス・アワーについて	14
5. 6. 学習支援室の利用	14
5. 7. 気象警報が徳島県北部（徳島・鳴門）に発令された場合の授業の休講	14
6. 試験及び成績の評価	14
6. 1. 受 験 資 格	14
6. 2. 学期末試験の期間	14
6. 3. 試験の受験心得	15
6. 4. 成 績 の 評 価	15
6. 5. 不正行為について	15
6. 6. 追 試 験	15
6. 7. 再 試 験	16
6. 8. 成 績 の 通 知	16
6. 9. 再履修について（特に外国語と基礎科目群）	16
7. 共通教育の授業に関する付随的な事項	16
7. 1. Grade Point 評価	16
7. 2. 授業参観について	17
7. 3. 全学共通教育の授業公開について	17
7. 4. 工学部 JABEE（日本技術者教育認定機構）について	17
III. 学部・学科別の履修方法	20
1. 総 合 科 学 部	20
1. 1. 総合科学部人間社会学科	20
1. 2. 総合科学部自然システム学科	22
2. 医 学 部	24
2. 1. 医学部医学科	24
2. 2. 医学部栄養学科	26
2. 3. 医学部保健学科	28
2. 3. 1. 医学部保健学科看護学専攻	28
2. 3. 2. 医学部保健学科放射線技術科学専攻	30
2. 3. 3. 医学部保健学科検査技術科学専攻	32
3. 歯 学 部	34
3. 1. 歯学部歯学科	34
3. 2. 歯学部口腔保健学科	36

4. 薬 学 部	38
5. 工 学 部	40
5. 1. 工学部建設工学科	40
5. 2. 工学部機械工学科	42
5. 3. 工学部化学応用工学科	44
5. 4. 工学部生物工学科	46
5. 5. 工学部電気電子工学科	48
5. 6. 工学部知能情報工学科	50
5. 7. 工学部光応用工学科	52
6. 工学部夜間主コース	54
6. 1. 工学部夜間主コース建設工学科	54
6. 2. 工学部夜間主コース機械工学科	56
6. 3. 工学部夜間主コース化学応用工学科	58
6. 4. 工学部夜間主コース生物工学科	60
6. 5. 工学部夜間主コース電気電子工学科	62
6. 6. 工学部夜間主コース知能情報工学科	64
7. 留 学 生	66
IV. 全学共通教育 開講授業科目・授業題目・担当者一覧（2008年度）	67
V. 徳島大学全学共通教育履修規則	79
VI. 全学共通教育に関わる学生生活	83
1. 学生窓口と取扱時間	83
1. 1. 全学共通教育履修学生の窓口事務	83
1. 2. 2年次生（後期）以降の窓口事務	83
1. 3. 取 扱 時 間	83
2. 学生への連絡方法（掲示）	83
3. 学 生 証	84
4. 各種証明書の発行	85
5. 講義室の使用	86
6. 授 業 料	86
7. 授 業 料 免 除	87
8. 奨 学 金	87
9. 健康管理関係	87
10. 課外活動その他学生生活に関すること	87
11. 交通事故の防止	87
12. そ の 他	87
12. 1. 学生の呼び出し等について	87
12. 2. 郵便物について	88
12. 3. 喫煙について	88
12. 4. 遺失物及び拾得物について	88
12. 5. 交通事故・盗難について	88
12. 6. 携帯電話等の使用について	88
12. 7. エレベーターの使用について	88
12. 8. そ の 他	88
VII. 常三島キャンパス	90
総合科学部建物配置図（共通教育棟を含む）	90
工学部建物配置図	91
共通教育4号館	92
共通教育5号館	93
共通教育6号館	94
総合科学部3号館	95
総合科学部1号館	97
総合科学部2号館	100
工学部共通講義棟（K棟）	101

I 徳島大学における学びについて

1. 全学共通教育の目的 1
2. 大学での学びの全般的な注意 1

用 語 の 説 明

「履修」：受けたい授業が決まったら、登録の作業を行い受講の手続きをします。授業を受け、試験やレポートを提出して、合格すればその授業の単位が認定されます。この一連の流れを履修といいます。

「履修要件」：自分の所属する学部学科が、履修規則によって定めた進級や卒業のための条件を履修要件といいます。自分の所属する学科の全学共通教育の履修要件については、学部・学科別の履修方法（p.20～p.66）で説明しています。

「単位」：単位とは、予習・復習に時間をかけて、1時間半の授業を受け、試験やレポートなどによって成績の評価を受けて合格した場合に認定されるものです。授業によって、1単位、2単位などのように決まっていて時間割や、授業概要（シラバス）に示されています。詳しくは「単位の基準」（p.3）で説明しています。

「TOEIC（IP）」：TOEIC（IP）とは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテスト（TOEIC:Test of English for International Communication）の団体特別受験制度（IP:Institutional Program）のことです。TOEIC（IP）試験を7月に学内で実施します。1年次学生は、全員受験します。自分の英語のコミュニケーション能力を客観的に知ることができます。成績がよいと、英語の単位が認定されます。詳しくは外国語技能検定試験による単位認定（p.7）で説明しています。

I. 徳島大学における学びについて

1. 全学共通教育の目的

徳島大学では、全学共通教育＜4つの目的＞を定め、学生の皆さんの学びへの意欲と、知識、能力を高めようとしています。

＜4つの目的＞

1. 大学での学びに適応し、主体的に知的訓練に取り組む態度を養う。
2. 社会人としての豊かな人間性と高い倫理観を培う。
3. さまざまな体験を通して、人間力や社会性を身につけ、進取の気風を育む。
4. 諸科学の基本的な思考法や言語運用能力などを身につけ、自立的学習の基盤を形成する。
5. 複合的な視点から専門分野を理解し、必要な基礎的知識を身につける。

2. 大学での学びの全般的な注意

1) 資料に目を通す

大学では、これまでとは違って自分で授業を選び、自主的に学んでいく姿勢を持たなくてはなりません。そのための資料として、次のようなものが用意されています。

- ・『全学共通教育履修の手引（本冊子）』
共通教育で行われる授業を履修するための重要な事項が説明されています。
- ・『全学共通教育授業概要（シラバス）』
共通教育で行われるそれぞれの授業の概要が説明されています。
- ・『全学共通教育時間割』
前・後期別に作成されています。
- ・『徳島大学全学共通教育 2008 学びのファーストステップ』
全学共通教育のカリキュラムや授業の登録方法などが分かりやすく説明されています。

また、皆さんは学部にも所属していますから、学部の授業についても知っておかなくてはなりません。そのために資料は、それぞれ自分の所属する学部では、次のようなものが用意されています。

- ・『学部学科の履修の手引』
- ・『専門科目の時間割』
- ・『専門科目の授業概要（シラバス）』

こうした資料をもとにして、大学の授業を受けて、単位を取得し、卒業することになります。

皆さんが、卒業するためには、それぞれ所属する学部学科によって決められている全学共通教育と専門教育の履修要件単位数を満たさなければなりません。

そのために、自分で計画を立てなければなりません。まず自分の時間割を作る必要があります。大学では、これまでと違って自由に授業を選べるわけですから、ひとりひとり違う時間割があることになります。

受けてみたい授業が決まったら、受講の手続きが必要になります。その前に必ず受けなければならない授業が、学部学科によって決まっているので、気をつけてください。学年があがるにつれて学部学科の専門科目が多くなります。

2) 時間割を作る

学部学科別の履修方法と、全体の時間割を見て受講する予定の授業を以下の順で選びます。『徳島大学全学共通教育 2008 学びのファーストステップ』にある「授業時間割表の作り方」に従って時間割表を完成させてください。

3) 授業の登録

受ける授業が決まったら、全学共通教育では、Web によって受講科目を登録します。その方法については、『徳島大学全学共通教育 2008 学びのファーストステップ』に詳しく説明していますのでそちらを見てください。Web 履修登録は、**授業が実施される前日の午後 1 時まで（工学部夜間主コースも同じ）に登録してください。**なお、履修登録数が受講定員を超過した場合は、抽選による受講調整を行います。また、集中講義による授業もありますので、十分注意してください。

4) 悩まずに

全学共通教育に関しては、分からないことがあったら、共通教育 4 号館（1 階）の学務課教育支援係に相談してください。

全学共通教育センター学習支援室が総合科学部 3 号館 1 階のスタジオの一角にあります。教員が待機して、履修相談をはじめ、いろいろな相談に対応しています。ご利用ください。（p 14 参照）。

各教員がオフィスアワーを設け、授業の質問などに対応しています。オフィスアワーの時間や場所は、シラバスの各授業概要に記載されています。

また、それぞれの学部には、学務（教務）係があり、学部・学科に教務委員やクラス担任などが、履修相談などに応じています。

5) 日々のお知らせ

いろいろな情報は、すべて掲示板によって知らされます。毎日少なくとも一度は、全学共通教育掲示板を確認するようにしてください。

授業が、教員の出張のためや気象状況などで休講になることがあります。そうした休講情報は、全学共通教育センターのホームページで見ることができます（携帯電話からも可能）。また、休講になった授業については補講があります。

6) その他

他大学を卒業または中途退学して、本学に入学した人は、既修得単位の認定制度がありますので、期日内にその手続きをしてください。申請書類は、4 月 4 日（金）から学務課教育支援係で交付します。説明会を 4 月 7 日（月）18 時 10 分から共通教育 4 号館 201 講義室で行います（p 7 参照）。

Ⅱ 全学共通教育の履修 全体にわたる事項

1. 単位の基準	3
2. 全学共通教育の開設授業科目	3
3. 特別な単位の認定	7
3. 1. 入学前の既修得単位の認定	7
3. 2. 放送大学の修得単位の認定	7
3. 3. 外国語技能検定試験による単位の認定	7
3. 4. 留学による単位の認定	9
4. 授業の履修手続き	9
4. 1. 履修登録の方法と期間	9
4. 2. 初回授業受講時の注意	10
4. 3. 初回授業以後の履修登録の修正の方法と期間	11
4. 4. 履修登録確認について	12
5. 授業を受ける	13
5. 1. 授業の場所	13
5. 2. 授業の時間帯	13
5. 3. 授業のクラス分け	13
5. 4. 授業を受ける態度	14
5. 5. オフィス・アワーについて	14
5. 6. 学習支援室の利用	14
5. 7. 気象警報が徳島県北部（徳島・鳴門）に発令された場 合の授業の休講	14
6. 試験及び成績の評価	14
6. 1. 受験資格	14
6. 2. 学期末試験の期間	14
6. 3. 試験の受験心得	15
6. 4. 成績の評価	15
6. 5. 不正行為について	15
6. 6. 追試験	15
6. 7. 再試験	16
6. 8. 成績の通知	16
6. 9. 再履修について（特に外国語と基礎科目群）	16
7. 共通教育の授業に関する付随的な事項	16
7. 1. Grade Point 評価	16
7. 2. 授業参観について	17
7. 3. 全学共通教育の授業公開について	17
7. 4. 工学部 JABEE（日本技術者教育認定機構）について	17

Ⅱ. 全学共通教育の履修 全体にわたる事項

1. 単位の基準

1 単位あたりの学習時間は大学設置基準第 21 条、徳島大学学則第 30 条に定められているように 45 時間です。これに従って、授業ごとに単位数が決められていますが、1 回の授業について、講義については 2 時間の予習と復習が、演習、実験、実習については 1 時間の予習または復習が必要です。各授業科目に対する単位数は、時間割表とシラバスに次のように数字と記号で表されています。なお、ウェルネス総合演習は、名称が演習ですが、単位の考え方は講義と同じです。英語については、単位の考え方は原則演習ですが、講義のものもあります。

単位数の表記の例（原則 1 学期 15 回の授業に対する単位数）

	時間割での表記の仕方	履修すると与えられる単位数
大学入門科目群 大学入門講座 高大接続科目	1 L 2 L（認定）※	1 単位（8 回の授業相当） 2 単位（認定）
教養科目群	2 L	2 単位
社会性形成科目群 ウェルネス総合演習 共創型学習 ヒューマンコミュニケーション	2 L 2 L 2 S	2 単位 2 単位 2 単位
基盤形成科目群 外国語の科目 発信型英語 情報科学	1 S 2 L 2 L	1 単位 2 単位 2 単位
基礎科目群 基礎科目 医学科、歯学科の基礎科目 実験	2 L 1 S 2 E	2 単位 1 単位 2 単位（4 講時の実験の授業）

L、S、E は授業形式であり、L は講義、S は演習、E は実験を表しています。

※「数学」を履修した場合、教養科目群の「自然と技術」に認める学科があります。各学科別の履修方法を参照してください。

2. 全学共通教育の開設授業科目

全学共通教育では、開設されている授業科目を 5 つの科目群に分けています。各科目群にはいくつかの授業科目があり、そしてそれぞれの授業科目のもとに複数の授業題目が設けられています。

以下の科目表を参照してください。

大学入門科目群

教養科目群

社会性形成科目群

基盤形成科目群

基礎科目群

科 目 表

授 業 科 目 の 区 分		授 業 題 目
科 目 群	授 業 科 目	
大学入門科目群	大学入門講座 高大接続科目	大学入門講座 数学 物理学 化学 生物学
教養科目群	歴史と文化 人間と生命 生活と社会 自然と技術	個々の授業題目
	日本事情（留学生対象）	日本事情Ⅰ～Ⅳ
社会性形成科目群	ウェルネス総合演習 共創型学習 ヒューマンコミュニケーション	ウェルネス総合演習 個々の授業題目 ヒューマンコミュニケーション ソーシャルコミュニケーション
基盤形成科目群	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 情報科学	基盤英語 主題別英語 発信型英語 ドイツ語入門 ドイツ語初級 フランス語入門 フランス語初級 中国語入門 中国語初級 情報科学入門
	日本語（留学生対象）	日本語 1～8
基礎科目群	基礎数学 基礎物理学 基礎物理学実験 基礎化学 基礎化学実験 基礎生物学 基礎生物学実験	個々の授業題目

学生の皆さんは、所属する学部学科によって定められている履修要件に従って、それぞれの科目群から、授業科目・題目を選んで履修し卒業に必要な単位を満たす必要があります。

1 大学入門科目群

次の2つの授業科目から構成されています。

大学入門講座

全学部学科必修で、1単位とし、卒業に必要な単位となります。内容は、各学部、各学科の教務担当と学生担当の教員が中心となって、徳島大学の学生としてのアイデンティティを持ち、これまでの学習方法とは異なる、大学での自発的な自学自習の方法を身に付けることを主眼としています。

高大接続科目

入試科目の関連で、各学部学科が求めている基礎科目群の中で、入学時までに履修したことがない授業科目についての補習的な内容の自由選択の授業科目です。履修すると2単位（認定）として成績が出されますが、卒業に必要な単位には含まれません。ただし、数学は総合科学部人間社会学科、自然システム学科、医学部栄養学科、保健学科（看護学専攻・検査技術科学専攻）、歯学部口腔保健学科の学生については、教養科目群の「自然と技術」の2単位として含めることが可能です。

2 教養科目群

次の4つの授業科目から構成されています。

1) 歴史と文化 2) 人間と生命 3) 生活と社会 4) 自然と技術

各学部学科において、履修する単位が指定されていますので、「Ⅲ. 学部・学科別の履修方法」に従って、それぞれの授業科目に属する授業題目を履修し、必要な単位をそろえてください。同じ授業題目のものを再度履修することはできません。また、それぞれの授業科目について、卒業に必要な単位として含められるのは6単位までです。

また、大人数の講義形式とは違う少人数クラスのゼミナールという授業形式もあります。時間割に、「ゼミナール」と、授業題目の前についているものが該当します。全ゼミナールから、1つしか履修できません。

【学部学科が共通教育に開放する授業科目等の履修について】

学部学科の専門教育科目の授業（当該学部学科の学生にとっては必修）あるいは他学部学科が指定する共通教育科目の基礎科目群の授業科目（指定する学部学科の学生にとっては必修）を、他の学部学科の学生が履修すると教養科目群の単位に含めることができます。

該当する授業題目は以下のものです。時間割には別表で示してあります。授業は当該学部学科の教室で行われる場合があります。

1) 学部学科が共通教育に開放する授業科目について

認定される教養科目群		担 当 教 員	前期・ 後期の別	曜 日	講 時	開設 学部	専門科目／共通教育教養(基礎)科目群	平成 16 年度以前の入学生 (保健学科は平成 17 年度以前の入学生)	
授 業 題 目	授業科目							旧授業科目	旧 授 業 題 目
【歴史と文化】									
中国語Ⅰ	歴史と文化	邵 迎建	前	月	7・8	総	総合科学部人間社会学科専門科目	中国語	中国語(2)
中国語Ⅱ	歴史と文化	荻森健介	前	火	5・6	総	総合科学部人間社会学科専門科目	中国語	中国語(2)
中国語Ⅰ	歴史と文化	邵 迎建	後	月	7・8	総	総合科学部人間社会学科専門科目	中国語	中国語(2)
中国語Ⅱ	歴史と文化	荻森健介	後	火	5・6	総	総合科学部人間社会学科専門科目	中国語	中国語(2)
【人間と生命】									
(医)小児看護学概論	人間と生命	谷 洋江	前	木	5・6	医	医学部保健学科専門科目	学部開放科目	(医)小児看護学概論
(医)生命・健康・病気(1)	人間と生命	医学部教員	前	金	3・4	医	共通教育教養科目群	学部開放科目	(医)生命・健康・病気
(歯)口腔と健康	人間と生命	河野文昭	前	金	3・4	歯	歯学部歯学科専門科目	学部開放科目	(歯)口腔と健康
(医)放射線医学入門	人間と生命	上野淳二 他	後	金	7・8	医	医学部保健学科専門科目	学部開放科目	(医)放射線医学入門
【自然と技術】									
(工)機械工学概論	自然と技術	機械工学科教授	前	月	13・14	工	共通教育教養科目群	学部開放科目	(工)機械工学概論
(工)電気電子工学概論	自然と技術	電気電子工学科教員	前	月	13・14	工	共通教育教養科目群	学部開放科目	(工)電気電子工学概論
(工)知能情報工学セミナー	自然と技術	青江 他	前	木	5・6	工	工学部知能情報工学科専門科目	学部開放科目	(工)知能情報工学セミナー
(工)機械工学概論	自然と技術	機械工学科教授	前	木	5・6	工	共通教育教養科目群	学部開放科目	(工)機械工学概論
(工)光の基礎	自然と技術	陶山史朗	前	木	5・6	工	工学部光応用工学科専門科目	学部開放科目	(工)光の基礎
地域の環境と防災	自然と技術	鎌田 他	前	木	5・6	工	共通教育教養科目群	学部開放科目	地域の環境と防災
(工)化学応用工学概論	自然と技術	金崎, 川城	前	木	5・6	工	共通教育教養科目群	学部開放科目	(工)化学応用工学概論
(工)電気電子工学概論	自然と技術	電気電子工学科教員	前	木	5・6	工	共通教育教養科目群	学部開放科目	(工)電気電子工学概論
(医)臨床検査学入門	自然と技術	西田 他	前	金	3・4	医	医学部保健学科専門科目	学部開放科目	(医)臨床検査学入門
(医)医療情報処理学入門	自然と技術	近藤 正	前	金	5・6	医	医学部保健学科専門科目	学部開放科目	(医)医療情報処理学入門
(歯)医療情報処理	自然と技術	河野文昭	前	金	5・6	歯	歯学部口腔保健学科専門科目 歯学部共通教育基礎科目群	学部開放科目	(歯)医療情報処理
(歯)歯学概論	自然と技術	歯学部教授	後	木	1・2	歯	歯学部歯学科専門科目	学部開放科目	(歯)歯学概論
(工)生物工学概論	自然と技術	辻(明) 他	後	木	5・6	工	共通教育教養科目群	学部開放科目	(工)生物工学概論
(工)化学応用工学概論	自然と技術	川城 他	後	木	11・12	工	共通教育教養科目群	学部開放科目	(工)化学応用工学概論

これ以外にも、教養科目の履修については、各学部・学科ごとに卒業に必要な履修上の条件が定められていますので注意してください。

日本事情

留学生を対象としています。日本事情Ⅰ～Ⅳがあり、教養科目群の中の授業（歴史と文化、人間と生命、生活と社会、自然と技術）に読み替えることができます。具体的な科目については年度により異なる場合がありますので、日本事情担当教員にお問い合わせください。

3 社会性形成科目群

次の3つの授業科目から構成されています。

- 1) ウェルネス総合演習 2) 共創型学習 3) ヒューマンコミュニケーション

各学部学科において、履修の方法が異なりますので、注意してください。

4 基盤形成科目群

外国語の区分：

- 1) 英語

英語には、基盤英語（B：Basic）、主題別英語（T：Thematic）、発信型英語（C：Communicative）が用意されています。基盤英語と主題別英語は、1授業で1単位ですが、発信型英語は、2年生以上で受講することができ、1授業で2単位の授業です。

各学部学科の履修要件に従って、4単位から8単位まで履修することになります。各学部学科に応じて履修のパターンが用意されています。各学部学科の履修方法に説明があります。

Bの再履修は次の期のTを余分にとることで可能です。Tの再履修はTで、Cの再履修は原則Cを再受講する必要がありますが、事情によりCはTを2つで代替可能です。工学部夜間主コースに限り、必要単位数より多く履修した場合、その余剰単位は、教養科目群の単位に振り替えることもできます。Bは上限2単位とし、Bだけで各学部学科の履修要件の単位数までそろえることはできません。Cについては少人数クラスであるので開講数の関係上原則1回の受講とします（総合科学部人間社会学科は2回）。

- 2) 英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）

それぞれ「入門」と「初級」の授業科目があります。各学部学科の履修要件に応じて、ひとつの外国語を2単位または4単位のまとまりで履修してください。

日本語

留学生を対象としています。日本語1～8があり、外国語の単位に含めることができます。

情報科学

情報科学入門の授業科目があり、各学部学科の履修要件に応じて履修します。

5 基礎科目群

基礎数学

基礎物理学

基礎化学

基礎生物学

基礎物理学実験

基礎化学実験

基礎生物学実験

それぞれに、講義形式、実験形式の授業科目が開講されています。各学部学科の履修要件に応じて履修します。

3. 特別な単位の認定

3. 1. 入学前の既修得単位の認定

下記の者については、大学・短大等における既修得単位のうち、30単位まで共通教育の単位として認定されることがあります。なお、徳島大学の卒業生・中途退学者に対しては、各学部で定めた単位を上限として既修得単位が認められています。また、一部の学部・学科では、専門科目の既修得単位についても認めていますので、これらについては各学部の学務担当係で確認してください。

1. 大学または短期大学を卒業あるいは中途退学した者で、新たに第1年次に入学した者

(1) 申請用紙は学務課教育支援係で交付します。

(2) 申請書の書き方については、4月7日(月)18時10分から共通教育4号館201講義室で説明会を開催します。説明会では具体的な単位認定の手続き・方法について説明しますので、必ず出席してください。なお、申請者は、既修得単位が確定する5月中～下旬までは、各学部・学科の履修要件に沿って通常の受講手続きを行い、授業を受けておいてください。

(3) 申請書以外に、単位を取得した大学・短期大学の成績証明書や認定を受けようとする大学・短期大学における授業内容が判る資料（シラバスなど）が必要となります。申請前に予め用意し、可能であれば説明会の際に持参してください。

なお、大学によっては一般教育科目と基礎科目を分離していない場合があります。また、認定の過程で専門科目として取得した単位を共通教育の単位として認定される場合もあります。成績証明書やシラバス（コピー可／シラバスの表紙・目次も添付すること）などについては、一般教育科目（基礎科目を含む）・専門科目の両方について準備しておくといでしょう。

(4) 申請締切後に関係委員が提出書類を審査します。シラバス（コピー可）などが入手できない場合には、申請者への面接等により各申請科目の授業内容を確認することになります。

(5) 既修得単位の認定は、全学共通教育センター運営委員会で予備審査の後、各学部の教授会（6月）で最終的に認定され、通知されます。

関係する事柄については別途掲示によりお知らせしますので注意しておいてください。

2. 編入学した者……入学前に当該学部から案内があります。

3. 補欠入学した者……当該学部の学務担当係へ問い合わせてください。

4. 本学の学生で転学部、転学科を許可された者……当該学部の学務担当係へ問い合わせてください。

3. 2. 放送大学の修得単位の認定

徳島大学が指定した放送大学の開設科目を修得した場合、共通教育科目として8単位まで認定され、外国語の科目も含まれます。事前に申請する必要がありますので、徳島大学が指定する開設科目、受講手続き等の詳細については学務課教育支援係で相談してください。

3. 3. 外国語技能検定試験による単位の認定

外国語技能検定試験の成績により外国語の科目の単位が下記のように認定されます。該当する検定試験に合格、あるいは所定の得点に達した場合に、単位の認定を希望するものは速やかに学務課教育支援係まで申し出てください。ただし、これらの検定試験による単位の認定は1つの外国語につき8単位までとします。

① 英語

【ア】 実用英語技能検定（英検）（財団法人 日本英語検定協会、文部科学省認定）

準1級：英語4単位

1 級：英語8単位（既に4単位認定を受けている場合は4単位、
既に6単位認定を受けている場合には2単位）

【イ】 TOEFL (国際教育交換協議会)

IBT	CBT	PBT
61～73点	173～201点	500～534点：英語4単位
74～87点	202～229点	535～569点：英語6単位 (既に4単位認定を受けている場合は2単位)
88点以上	230点以上	570点以上：英語8単位 (既に4単位認定を受けている場合は4単位, 既に6単位認定を受けている場合に2単位)

【ウ】 TOEIC (財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会)

580～679点：英語4単位
680～779点：英語6単位 (既に4単位認定を受けている場合は2単位)
780点以上：英語8単位 (既に4単位認定を受けている場合は4単位, 既に6単位認定を受けている場合は2単位)

(注) 入学前に受験した試験の結果得られた級および得点も有効とする。

(注) 1年生は全員、学内で実施される TOEIC (IP) による英語統一試験を7月12日(土)に受験します。なお、病気などやむをえない理由で欠席した者に限り、7月19日(土)に試験を実施します。

② ドイツ語

ドイツ語技能検定試験 (独検) (財団法人 ドイツ語学文学振興会)

4 級	：ドイツ語入門2単位
3 級以上	：ドイツ語入門2単位およびドイツ語初級2単位

③ フランス語

実用フランス語技能検定試験 (仏検) (財団法人 フランス語教育振興協会)

4 級	：フランス語入門2単位
3 級以上	：フランス語入門2単位およびフランス語初級2単位

④ 中国語

【ア】 中国語検定試験 (日本中国語検定協会)

準 4 級	：中国語入門2単位
4 級	：中国語入門2単位および中国語初級2単位
3 級以上	：4級の規定に準じる

【イ】 中国政府漢語水平考試 (HSK) (中国国家漢語水平考試委員会)

基礎 1 級	：中国語入門2単位
基礎 2 級	：中国語入門2単位および中国語初級2単位
基礎 3 級, 初中等 3 級以上	：基礎 2 級の規定に準じる

3. 4. 留学による単位の認定

徳島大学では、下記の大学に短期留学した場合は、所定の条件のもとで、全学共通教育の外国語科目の単位が認定されます。単位認定を希望する学生は必ず事前に学務課教育支援係で相談してください。

外国語	指定研修先	備考
英語	ウェールズ大学スウォンジー校 カリフォルニア大学サンディエゴ校（医学英語プログラム※） 南イリノイ州立大学カーボンデール校 オークランド大学	※生理学と解剖学の知識を要する。
中国語	復旦大学 武漢大学	
フランス語	グルノーブル第三大学 ボルドー第三大学	

4. 授業の履修手続き

全学共通教育授業の履修計画の立案に当たっては、「全学共通教育履修の手引」及び「全学共通教育授業概要（シラバス）」を熟読するとともに「全学共通教育時間割」を参照し、『徳島大学全学共通教育 2008 学びのファーストステップ』に従って、立案してください。この場合、各学部・学科によって、卒業に必要な単位数が異なりますので履修要件を満たすように計画してください。

4. 1. 履修登録の方法と期間

全学共通教育の科目を履修するためには、履修しなければならない科目、履修したい科目を登録することが必要です。『徳島大学全学共通教育 2008 学びのファーストステップ』の「履修登録の手順」に従って、登録してください。

1. 履修登録の方法（ウェルネス総合演習を除く。）

履修登録は、原則学内（学部・学科・高度情報化基盤センターなど）^{*注1}のパソコンを利用して履修システム（Web）で登録します。^{*注2}

2. ウェルネス総合演習の履修登録の方法

ウェルネス総合演習は、受講票（マークカード）を担当教員に提出することにより、履修登録します。詳しくは、「4. 2. 初回授業の受講時の注意」をご覧ください。

なお、受講票は、オリエンテーション時に配布していますが、学務課教育支援係にもあります。

3. 履修登録の期間

前期授業履修登録期間 4月2日(水)～4月11日(金)

- (1) 各授業の履修登録には締め切りがあり、初回授業前日（月曜日の授業は前週の金曜日）の13時となっています。

（昼間、夜間主コースとも同日時が締め切り）

- (2) ウェルネス総合演習は初回授業時、教員の指示により、受講票（マークカード）を授業担当教員へ提出します。

後期授業履修登録期間 9月25日(木)～10月6日(月)

- (1) 各授業の履修登録には締め切りがあり、初回授業前日（月曜日の授業は前週の金曜日）の13時となっています。

（昼間、夜間主コースとも同日時が締め切り）

- (2) ウェルネス総合演習は初回授業時、教員の指示により、受講票（マークカード）を授業担当教員へ提出します。

*注1：高度情報化基盤センターホームページで学外用ユーザーIDを登録すると学外からも履修シス

テムが利用できるようになります。

新入生は、既に登録されているので、学外のパソコンから履修登録ができます。

なお、学外用のユーザー ID は 4 か月の利用期限があり、継続して利用する場合は、その都度更新（登録）する必要があります。（新入生用に登録したものは 7 月中までの期限となります。）

利用方法はオリエンテーション時にお配りした「WWW ブラウザによる学外からの学内の Web サーバー閲覧（SSL－VPN）サービスについて」を参照ください。

＊注 2：「Ⅲ 各学部・学科別の履修方法」で記載の、主題別英語（T）を基盤英語（B）の代わりに受講する場合の履修登録は履修登録システム（Web）を使用せず、初回授業時に担当教員へ受講票（マークカード）を提出することにより、登録してください。（履修登録システム（Web）で登録すると誤りとして取り扱われます。）

4. 2. 初回授業受講時の注意

1. 教養科目の場合

受講希望者が受講定員を超える場合は、コンピュータにより抽選します。抽選結果は授業前日（月曜日授業は前週の金曜日）17 時までに掲示板で発表します。また、履修登録システム（Web）でも抽選結果を確認できます。

（抽選にはずれた場合）

抽選にはずれた場合は、次に希望する科目の教室へ行き、授業開始時に担当教員に受講票を提出することにより、履修登録しますが、既に抽選が行われた授業には受講票の提出はできません。また、受講票が提出できて授業開始後 15 分以内に受講定員を超過した場合は、提出された受講票の中で再度抽選が行われます。

学務課教育支援係に当日、朝の時点の各授業の登録状況を準備しているので、確認の上、次に受講票を提出する授業を決めてください。

また、初回授業時は担当教員が教壇の黒板に、担当授業の履修登録追加可能な人数を板書することとなっていますので、教室へ行ったときに状況を把握することができます。

(1) 受講票は学務課教育支援係にありますので、次に希望する授業に行く前に準備してください。

(2) 再度抽選にはずれた場合は、同様に受講票を準備して次に希望する授業へ行き、「再度抽選にはずれた」旨を申し出て、すみやかに担当教員に受講票を提出してください。（その際、受講票の提出は、授業開始時刻を超過していても差し支えありません。）

初回授業時は各授業の教壇の黒板に現在の受講定員の空き情報が板書されています。受講定員に空きのある授業については、受講定員に達するまで提出順に受理されます。（受講定員超過による抽選は行われません。）

2. ウェルネス総合演習の場合

初回授業の授業日は体育館 1 F の武道場に全員集まりクラス分けを行います。受講票（マークカード）を担当教員の指示により提出し、授業を受けてください。（事前の受講票提出はできません。）

また、通常の授業の受講に特別な事情で不安がある場合（肢体不自由、身体衰弱、退院後間もない、病気、けがの場合など）は、担当教員に相談してください。

＊ オリエンテーションで配布、また学務課教育支援係に設置の受講票（マークカード）は「4. 3 初回授業以後の履修登録の修正の方法と期間」で記載説明のあるものと同一様式です。記載例はそちらを参照ください。

3. 外国語科目の場合

外国語科目は、学部・学科により、時間割の指定があります。時間割の指定があっても複数の選択肢がある場合は、受講定員超過による抽選が行われる場合があります。教養科目と同様、抽選が行われた場合は、初回授業前日の 17 時までに、結果を掲示します。

もし、抽選にはずれた場合は、次に希望する授業の教室へ行き、担当教員に受講票を提出してください。

(英語科目について)

英語科目は、次の事項に注意ください。

(1) 英語クラスの抽選について

英語クラスでは、受講定員の超過の有無にかかわらず、その時間帯の同種クラスの人数バランスによって調整(抽選)を行うことがありますので、授業前に必ず掲示を確認してください。

受講調整が行われた場合は、他の抽選と同様に掲示を行います。移動先を指示していますので、授業当日、指示された移動先の担当教員へ受講票を提出し、受講してください。

(2) 再履修者、編入学者の履修登録について

再履修者、編入学者はクラス指定にかかわらず、必要に応じて自分の都合の良い講時に履修登録することができますが、履修登録の状況により、同講時の別のクラスへ移動するよう、指示されることがあります。抽選と同様、初回授業前日の17時までに掲示しますので、授業当日、移動先の担当教員へ受講票を提出し、受講してください。

4. 基礎科目の場合

初回授業についての特記事項はありません。履修登録した授業を受講してください。

5. 日本語科目及び日本事情に関する科目の場合

初回授業についての特記事項はありません。履修登録した授業を受講してください。

4. 3. 初回授業以後の履修登録の修正の方法と期間

履修登録期間の初回授業の前日までは、履修システムで自由にできます。

初回授業以後の履修登録の修正については次の1～3のとおりです。

なお、修正期間中の修正でも、各教員が授業計画に従い授業進行している最中の変更となりますので、教員の下承を得られたもの(受講票が受理されたもの)のみ、登録されます。(教員に提出しても受理されない場合があります。)

1. 修正の方法

履修登録の修正は

受講の許可を受けたい授業： 受講票(マークカード)を授業担当 教員に提出	+	履修の登録を取り消したい授業： 削除カード(マークカード)を学務 課教育支援係へ提出
--	---	--

の一組の手続きが必要です。

注意点は次のとおりです。

(1) 例年、受講票、削除カードのマークミスによる誤りが多くあります。

提出前の確認、また、提出後に修正が反映されているかを必ず確認してください。(少なくとも翌々日には履修登録システムへ反映されます。)

(2) 抽選が実施された授業への受講票の提出はできません。

抽選後、履修の取り消し等で、受講定員より受講者が少なくなる場合がありますが、その場合も不可です。

(3) 履修登録修正のための受講票提出先は、授業担当教員のみです。

(4) 全学共通教育、専門教育に関わらず同一講時での複数の登録はできません。授業担当教員が受講票を受理した場合は、すぐに登録済みの同講時授業の削除カードを学務課教育支援係へ提出してください。

(専門科目は各学部で受講取り消しをしてください。)

2. 履修登録変更期間

履修登録変更期間は次のとおりです。

前期受講登録変更期間 初回授業日～ 4月21日(月)

後期受講登録変更期間 初回授業日～ 10月14日(火)

ただし、後期月曜日の授業の変更締切は10月20日とする。

注意事項

- * 変更期間は設けていますが、非常勤講師等、授業日以外に手渡しできる機会の無い教員がいます。受講票は必ず授業時に渡すようにしてください。

記載例

全学共通教育 受講票

区分	学部	学 生 番 号	時間割コード	全学共通教育 受講票	
前期	理工学部	5008070010	12303	平成20年度 前期 火曜日 7・8 講時	
前期	理工学部			授業科目名	ウェルネス総合演習
前期	理工学部			授業題目名	
前期	理工学部			教 官 名	的 場
前期	理工学部			(工 学 部)	光太郎 学科 / 年
前期	理工学部			氏 名	光 太 郎

注1. 受講票は1科目1枚受講する全科目提出してください。
 注2. 同じ時間帯に複数のカードを出すと無効になります。
 注3. エラーが出ると無効になります。注意して記入してください。

全学共通教育 受講削除カード

区分	学部	学 生 番 号	時間割コード	全学共通教育 受講削除カード	
前期	理工学部	5008070010	12303	平成20年度 前期 火曜日 7・8 講時	
前期	理工学部			授業科目名	ウェルネス総合演習
前期	理工学部			授業題目名	
前期	理工学部			教 員 名	的 場
前期	理工学部			工 学部	光太郎 学科 / 年
前期	理工学部			氏 名	光 太 郎

注1. このカードは受講登録後、受講を取り消す時に提出してください。
 注2. エラーが出ると無効になります。注意して記入してください。

4. 履修登録確認について

履修登録の結果は、履修システム（Web）で随時見ることができます。また、受講調整や受講票・削除カードの提出の結果なども反映されるので、必ず確認してください。履修登録されていない科目は、授業を受けても単位を修得することはできません。

5. 授業を受ける

5. 1. 授業の場所

全学共通教育の授業は、共通教育4号館、5号館及び6号館、総合科学部3号館、および工学部共通講義棟の各講義室で行われます。ただし、一部の授業は、所属学部で行われるものもありますので、「全学共通教育時間割」で確認してください。なお、情報科学は高度情報化基盤センターで、ウェルネス総合演習は総合グラウンド及び体育館でも実施されます。（この手引のp.90に配置図がありますので参照してください。）

5. 2. 授業の時間帯

全学共通教育の授業時間は、1講時を45分とし、原則として2講時90分を1コマ（ひとまとまり）として実施されます。なお、各講時の授業時間帯は次のとおりです。

講時別授業時間帯

講 時	時 間 帯	備 考
第1・2講時	8時40分～9時25分 9時25分～10時10分	昼間コース授業
第3・4講時	10時25分～11時10分 11時10分～11時55分	〃
第5・6講時	12時50分～13時35分 13時35分～14時20分	〃
第7・8講時	14時35分～15時20分 15時20分～16時05分	〃
第9・10講時	16時20分～17時05分 17時05分～17時50分	〃
第11・12講時	18時00分～18時45分 18時45分～19時30分	夜間主コース授業
第13・14講時	19時40分～20時25分 20時25分～21時10分	〃

5. 3. 授業のクラス分け

クラス分けは次のとおりです。

【教 養 科 目 群】…… クラスの指定はなく、各自が履修したい授業を自由に選ぶことができます。受講定員が定められており、受講希望者が定員数を超えた場合は、抽選等により受講者の調整を行います。

ゼミナール形式の授業、学部が開放する科目については受講者数の制限があります。

【社会性形成科目群】…… ウェルネス総合演習、共創型学習、ヒューマンコミュニケーション
ウェルネス総合演習とヒューマンコミュニケーションはクラス分けがあります。共創型学習はクラス指定はなく、各自が履修したい授業を自由に選ぶことができます。受講定員が定められており、受講希望者が定員数を超えた場合は、抽選等により受講者の調整を行います。

【基 盤 形 成 科 目 群】…… 時間割に記載のとおり、受講対象学部・学科が指定されています。

【基 礎 科 目 群】…… 時間割に記載のとおり、受講対象学部・学科が指定されています。

留学生対象

【日本語、日本事情】…… 日本語については、漢字圏出身者のクラスと非漢字圏出身者のクラスが用意されています。

5. 4. 授業を受ける態度

授業を受けるにはマナーが必要です。大学生とはいえ社会人でもあるのでその自覚が大切です。次のことに注意してください。

- ・遅刻をしない
- ・飲食しない
- ・携帯電話の電源は切っておく
- ・私語はしない
- ・その他、迷惑になることをしない
- ・授業中に勝手に出入りしない

5. 5. オフィス・アワーについて

シラバスに記載されている「オフィスアワー」は、授業担当教員がみなさんからの質問に答えるために、研究室に在室している時間帯です。遠慮せずに教員の研究室を訪ねてください。

5. 6. 学習支援室の利用

1. 総合科学部3号館1階にスタジオがあります。1階スタジオの一角に全学共通教育センター学習支援室があります。スタジオは全学の学生が自習のために利用できます。
2. 学習支援室には、さまざまな科目の教科書、参考書、辞典などを配架した書架と自習用スペースがあります。活用してください。
3. 学習支援室では、教員が待機して、みなさんの質問にお答えしています。待機している教員が担当している授業や時間は、掲示板に掲示されています。気軽に質問に来てください。
4. 成績に関する疑問や不満、不服等があった場合も学習支援室に申し出てください。適切に対応します。なお、この点については学務課教育支援係でも対応します。

5. 7. 気象警報が徳島県北部（徳島・鳴門）に発令された場合の授業の休講

1. 午前7時に「暴風警報と大雨警報」、「暴風警報と洪水警報」、「大雪警報」が発令中の場合は、午前の授業を休講とします。
2. 午前11時に上記の警報が発令中の場合は、午後の授業を休講とします。
3. 午後4時に上記の警報が発令中の場合は、工学部夜間主コースの授業を休講とします。
4. 授業開始後に上記の警報が発令された場合は、次の時限以降の授業を休講とします。

6. 試験及び成績の評価

6. 1. 受 験 資 格

試験は原則として前期・後期の学期末に行われ、授業時間数の3分の2以上出席していなければ、学期末試験の受験資格を失います。なお、試験を欠席した者で、追試験対象者以外は再受講となります。

6. 2. 学期末試験の期間

試験期間は次のとおりです。

学期末試験は通常の授業と同じ曜日・講時に行われます。

前期試験 平成20年 7月28日(月)～8月1日(金)

後期試験 平成21年 2月4日(水)～2月10日(火)

6. 3. 試験の受験心得

学期末試験をはじめとする、すべての試験の受験に当たっては、次のことを厳守しなければなりません。

1. 試験受験時は、「学生証」を机の上に置いてください。
2. 学生証を所持していない学生は、学務課教育支援係において、「仮受験票」の交付を受けてください。
3. 「学生証」、「仮受験票」のどちらも所持しない者は試験を受けることはできません。
4. 携帯電話の使用は認めていません（時計は全教室に設置してあります）。
5. 遅刻の限度は試験開始後 20 分です。これを超えた者は受験資格を失います。
6. 退出する場合は試験開始後 20 分を待たなければなりません。

6. 4. 成績の評価

1. 成績の評価は、試験、レポート、学習状況などによって行われます。
2. 成績は、1 科目 100 点満点で採点され、60 点以上が合格となり、60 点未満は不合格となります。
なお、成績証明書には、80 点以上が優、70 点～79 点が良、60 点～69 点が可として、記載されます。

6. 5. 不正行為について

学期末試験をはじめとする試験で不正行為をした者は、徳島大学学則により相応の懲戒処分を受けるとともに、不正行為があった学期中に履修した全科目の成績が取り消されます。

もちろん、取り消された科目は、再受講（改めて初めから受講すること）することとなります。

不正行為とは、次のとおりです

1. カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど）をすること。
2. 使用を禁じられた用具を使用して問題を解くこと。
3. 試験場において、他の受験者の迷惑となる行為をすること。
4. 試験場において、試験監督者等の指示に従わないこと。
5. その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

6. 6. 追試験

1. 下記(1)～(3)の理由により学期末試験を受験できなかった者は、医師の診断書または欠席の理由が証明できる書類等を添えて「追試験」の実施を願い出ることができます。ただし、授業への規定出席日数が不足する者はこの対象にはなりません。また、専門科目の授業や行事が追試験の日時と重ならないように注意してください。

(1) 病気、ケガの場合

(2) 本人の責に帰することのできない特別の事情がある場合

(3) 運営委員会が認めた行事・大会等に参加する場合

（事前に学務課教育支援係に申し出てください。）

2. 追試験の願い出は、前項の事実を証明する証明書（医師の診断書など）に「学期末試験欠席届」を添えて、前期は8月8日(金)までに、後期は2月17日(火)までに学務課教育支援係へ申し出なければなりません。追試験の可否は全学共通教育センター運営委員会で審議され、許可された者へは許可書が交付されます。

なお、「学期末試験欠席届」の用紙は学務課教育支援係にあります。

3. 追試験の期間は次のとおりです。

- ・前期追試験期間 9月8日(月)～9月12日(金)
- ・後期追試験期間 3月2日(月)～3月6日(金)

4. 受験する場合は「追試験許可書」(運営委員会押印のもの)を学務課教育支援係で受け取った上、学生本人が追試験の実施を改めて授業担当教員に願い出てください。試験日等は、授業担当教員から口頭又は掲示により連絡されます。なお、「追試験許可書」は、追試験の実施を授業担当教員に申し出た際に提出することとし、遅くとも試験開始時刻までには授業担当教員に提出してください。
5. 追試験の成績は、1科目100点満点で採点され、60点以上が合格となり、60点未満は不合格となります。不合格の場合は「再受講」となります。

6. 7. 再試験

1. 学期末試験の成績が不合格となり、成績通知表に再試験の指示を示す「不」の標示が記載されている科目については、次の期間内に再試験を受験することができます。なお、授業によっては再試験が実施されないものもありますので「授業概要」の「再試験の有無」欄で十分確認してください。
 - ・前期再試験期間 9月8日(月)～9月12日(金)
 - ・後期再試験期間 3月2日(月)～3月6日(金)
2. 再試験の受験を希望する場合は、学務課教育支援係で「再試験願」用紙の交付を受け、学生本人が再試験の実施を授業担当教員へ申し出て、「再試験願」を提出してください。
3. 再試験の実施日は、授業担当教員から口頭又は掲示により連絡されます。
4. 再試験合格者の成績は、一律に60点となります。不合格の場合は「再受講」となります。

6. 8. 成績の通知

1. 履修科目の成績は、次のとおり履修システム(We b)でお知らせしますので、必ず確認してください。
 - 前期試験成績の通知 9月1日(月)から
 - 後期試験成績の通知 2月23日(月)から
2. Web 成績通知の表示内容は、次のとおりです。
 - 60点以上の点数記載の科目……合格
 - 不と記載されている科目……不合格につき「再試験」を受験できる科目
 - (不) " ……不合格につき再受講(改めて初めから授業を受講)となる科目
 - 欠 " ……試験を欠席した科目(追試験対象者以外は再受講となる)
 - (欠) " ……受験資格(2/3以上の授業出席)がない科目(再受講となる)

6. 9. 再履修について(特に外国語と基礎科目群)

再履修となった場合、学年が上になるに従って、自分が所属する学部学科の専門の授業履修の関係で、受講上制約が生ずる可能性があります。再履修となった場合には、必ず授業担当の教員に問い合わせてください。

7. 共通教育の授業に関する付随的な事項

7. 1. Grade Point 評価

点数評価をもとに、Grade Point (GP) 評価を行っています。GP 評価とは1から5までの数字を用いた5段階評価であり、国際的によく使われる方法です。GP の計算方式は以下のようになります。

点数が60点以上の場合

$$GP = (\text{点数評価} - 50) / 10$$

点数が60点に満たない場合

$$GP = 0$$

したがって、100点なら GP = 5.0, 80点なら GP = 3.0, 60点なら GP = 1.0 となります。

GP によって二つの平均値を計算することができます。個人の成績の平均値 (GPA) とクラスの成績の平均値 (GPC) です。

$$GPA = (\text{科目の単位数} \times GP) \text{ の総和} / (\text{履修登録した単位数の合計})$$

$$GPC = \text{履修登録した受講者の GP の総和} / (\text{履修登録した受講者数の合計})$$

GPA を用いて、全学共通教育では各学部・専攻ごとにもっとも点数の高かった学生を全学共通教育優秀学生賞として表彰します。履修登録した科目で単位をとれなかった場合 (不合格や試験の欠席など)、GP が 0 点と計算されます。授業計画を立てる際は十分気をつけてください。

7. 2. 授業参観について

全学共通教育センターでは、ファカルティ・デベロップメント (FD) の一環として、教員同士がお互いに授業方法を学び合い、全学共通教育の一層の充実を図ることを目的として、「授業参観制度」があります。

授業参観の時期

前期 6 月後半

後期 12 月後半

7. 3. 全学共通教育の授業公開について

地域の中に多様な学習機会が存在する中、地域の多様なニーズに応じ、全学共通教育の一部の授業を一般市民・高校生にも公開しています。

公開する授業については、全学共通教育時間割の☆印を付してある科目です。学生と市民・高校生が同じ教室で学ぶことは、授業の活性化や世代間交流としても意義があり、学生にとっても市民・高校生にとっても良い刺激となるはずです。

7. 4 工学部 JABEE (日本技術者教育認定機構) について

工学部学生にとっては全学共通教育科目すべてが JABEE 対応科目となります。JABEE 合格の単位認定要領は、下記の通りとなっていますので、注意してください。

1) JABEE 合格の単位認定は、共通教育の成績が 60 点以上とします。

2) 共通教育の再試験で合格の場合は、JABEE も追加合格とします。ただし、再試験が行われない場合は、特に JABEE 用の再試験も行われません。

3) JABEE 基準 1 (学習・教育目標) との関連については、

教養科目群：歴史と文化、人間と生命、生活と社会は、

(a) 「地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養」に、

教養科目群：自然と技術、基盤形成科目群：情報科学は、

(c) 「数学、自然科学、情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力」に、

基盤形成科目群：英語、ドイツ語、フランス語、中国語、日本語 (留学生対象) は、

(f) 「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」に、

社会性形成科目群：ウェルネス総合演習は、

(g) 「変化に対応した自主的、継続的に学習できる能力」に当たるものとします。

Ⅲ 学部・学科別の履修方法

1. 総合科学部	20
1. 1. 総合科学部人間社会学科	20
1. 2. 総合科学部自然システム学科	22
2. 医学部	24
2. 1. 医学部医学科	24
2. 2. 医学部栄養学科	26
2. 3. 医学部保健学科	28
2. 3. 1. 医学部保健学科看護学専攻	28
2. 3. 2. 医学部保健学科放射線技術科学専攻	30
2. 3. 3. 医学部保健学科検査技術科学専攻	32
3. 歯学部	34
3. 1. 歯学部歯学科	34
3. 2. 歯学部口腔保健学科	36
4. 薬学部	38
5. 工学部	40
5. 1. 工学部建設工学科	40
5. 2. 工学部機械工学科	42
5. 3. 工学部化学応用工学科	44
5. 4. 工学部生物工学科	46
5. 5. 工学部電気電子工学科	48
5. 6. 工学部知能情報工学科	50
5. 7. 工学部光応用工学科	52
6. 工学部夜間主コース	54
6. 1. 工学部夜間主コース建設工学科	54
6. 2. 工学部夜間主コース機械工学科	56
6. 3. 工学部夜間主コース化学応用工学科	58
6. 4. 工学部夜間主コース生物工学科	60
6. 5. 工学部夜間主コース電気電子工学科	62
6. 6. 工学部夜間主コース知能情報工学科	64
7. 留学生	66

Ⅲ. 学部・学科別の履修方法

1. 総合科学部

1. 1. 総合科学部人間社会学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で35単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群						合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験
	1		4	4	4	4	2		0	8	4			2	0	0	0	0	0	0	
	2(2科目群の科目から選択)																				
小計	1		20							14					0						35

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、「数学」以外の科目は、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。「数学」を履修した場合は、教養科目群の授業科目「自然と技術」に2単位として含めることができます。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (20単位)

教養科目群から16単位、社会性形成科目群から2単位、教養科目群と社会性形成科目群から2単位の合計20単位を履修してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を履修してください。

・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。

ただし、③教養科目群と社会性形成科目群で履修した教養科目群の単位数を含みます。

・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」の2つの授業科目から1授業題目(2単位)を履修してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2科目群の授業科目(ヒューマンコミュニケーションを除く。)から1授業題目(2単位)を履修してください。

(3) 基盤形成科目群 (14単位)

次頁の表2の通り、外国語については、英語8単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から4単位の計12単位、それに情報科学入門2単位の合計14単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									情報科学
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	情 報 科 学 入 門
2	2	4	4						2

① 英語（8単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）4単位の併せて8単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

総合科学部人間社会学科の履修のパターン：

1年前期 B B 後期 T T 2年前期 C 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

履修登録上の注意：

1年次の外国語は、月5・6、火3・4、水1・2、木1・2の4つの時間帯に開講されていますが、時間割については、まず初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）を決め、その後に英語を決めてください。初修外国語では学生番号によるクラス分けがあり「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照し、選択した外国語と自分の学生番号によって、「月5・6と水1・2」または「火3・4と木1・2」のどちらかの時間帯で受講します。英語は、初修外国語の時間割が決まった後、空いた時間帯で受講してください。英語については、登録者数が多いクラスでは受講者調整をすることがあります。第1回目授業の前日（4月7日から4月11日）の17時までに履修登録名簿を共通教育4号館1階に掲示します。

② 初修外国語（4単位）

ひとつの外国語を4単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を前期に2単位、「初級」を後期に2単位の計4単位履修してください。

「入門」および「初級」は指定されたペアのクラスで受講してください。クラスは、A、B、Cなどと表記されています。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はドイツ語はクラスごとに1単位ずつ、フランス語と中国語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で、「初級」は「初級」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

※ 中国語は「入門」の単位を取得していなければ、「初級」を受講することはできません。

1. 2. 総合科学部自然システム学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で35単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計		
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験		
	1		4	4	4	4	2		0	6	4			0	0	0	0	0	0	0			
			6(2科目群の科目から選択)																				
小計	1		24								10					0							35

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、「数学」以外の科目は、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。「数学」を履修した場合は、教養科目群の授業科目「自然と技術」に2単位として含めることができます。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (24単位)

教養科目群から16単位、社会性形成科目群から2単位、教養科目群と社会性形成科目群から6単位の合計24単位を履修してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を履修してください。

・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。

ただし、③教養科目群と社会性形成科目群で履修した教養科目群の単位数を含みます。

・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」の2つの授業科目から1授業題目(2単位)を履修してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2科目群の授業科目(ヒューマンコミュニケーションを除く。)から3授業題目(6単位)を履修してください。

(3) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から4単位の合計10単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		情報科学
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	情 報 科 学 入 門
2	2	2			4				0

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

総合科学部自然システム学科の履修のパターン（クラスによって異なります）：

1 年前期	B	B	後期	T	2 年前期	C	後期	T
または								
1 年前期	B	B	後期	T	2 年前期	T	後期	C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

履修登録上の注意：

1年次の外国語は、月5・6、火3・4、水1・2、木1・2の4つの時間帯に開講されていますが、時間割については、まず初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）を決め、その後に英語を決めてください。初修外国語では学生番号によるクラス分けがあり（「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照）、選択した外国語と自分の学生番号によって、「月5・6と水1・2」または「火3・4と木1・2」のどちらかの時間帯で受講します。英語は、初修外国語の時間割が決まった後、空いた時間帯で受講してください。英語については、登録者数が多いクラスでは受講者調整をすることがあります。第1回目授業の前日（4月7日から4月11日）の17時までに履修登録名簿を共通教育4号館1階に掲示します。

② 初修外国語（4単位）

ひとつの外国語を4単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を前期に2単位、「初級」を後期に2単位の計4単位履修してください。

「入門」および「初級」は指定されたペアのクラスで受講してください。クラスは、A、B、Cなどと表記されています。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はドイツ語はクラスごとに1単位ずつ、フランス語と中国語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で、「初級」は「初級」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

※ 中国語は「入門」の単位を取得していなければ、「初級」を受講することはできません。

2. 医 学 部

2. 1. 医学部医学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で45単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は4単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1		4	4	4	4	2	2		4		4		2	2	2	2	2	2	2	2	
小計	1		16				4			10					14							45

(1) 大学入門科目群（1単位）

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補修的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群（16単位）

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目（4単位）ずつ、合計8題目（16単位）を履修してください。

- ・各授業科目は各4単位までしか卒業に必要な単位に認められません。
- ・ゼミナール形式の授業（授業題目にゼミナールと表示）は、1授業題目（2単位）しか履修できません。

(3) 社会性形成科目群（4単位）

「ウェルネス総合演習」2単位と、「共創型学習」と「ヒューマンコミュニケーション」の2つの授業科目から1授業題目（2単位）の合計2題目（4単位）を履修してください。

(4) 基盤形成科目群（10単位）

下記の表2の通り、外国語については、英語4単位、英語以外の外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）から4単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									情報科学
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	
2	2	0	4						2

① 英語（4単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位の併せて4単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

医学部医学科の履修のパターン：

1年前期 B B 後期 T T

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、再受講する必要があります。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（4単位）

ひとつの外国語を4単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を前期に2単位、「初級」を後期に2単位の計4単位履修してください。

「入門」および「初級」は指定されたペアのクラスで受講してください。クラスは、A、B、Cなどと表記されています。ドイツ語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はドイツ語はクラスごとに1単位ずつ、フランス語と中国語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で、「初級」は「初級」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

※ 中国語は「入門」の単位を取得していなければ、「初級」を受講することはできません。

(5) 基礎科目群（14単位）

基礎数学2単位、基礎物理学2単位、基礎物理学実験2単位、基礎化学2単位、基礎化学実験2単位、基礎生物学2単位、基礎生物学実験2単位の合計14単位を下表の通り履修してください。

表3

基礎数学	2 S	微分積分学	1 S	1年前期	火7・8
		統計学	1 S	1年後期	火7・8
基礎物理学	2 S	基礎物理学Ⅰ・物理学概論	1 S	1年前期	火3・4
		基礎物理学Ⅱ・物理学概論	1 S	1年後期	火3・4
基礎物理学実験	2 E	基礎物理学実験A	2 E	1年後期	金7・8・9・10
		基礎物理学実験B	2 E	1年後期	水7・8・9・10
基礎化学	2 S	基礎化学Ⅰ・生化学の基礎	1 S	1年前期	金5・6
		基礎化学Ⅱ	1 S	1年後期	木5・6
基礎化学実験	2 E	基礎化学実験	2 E	1年後期	集中(2/16～2/20)
基礎生物学	2 S	基礎生物学MⅠ	1 S	1年前期	金7・8
		基礎生物学MⅡ	1 S	1年後期	月5・6
基礎生物学実験	2 E	基礎生物学実験A	2 E	1年後期	水7・8・9・10
		基礎生物学実験B	2 E	1年後期	金7・8・9・10

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学または電磁気）で受講してください。

2. 2. 医学部栄養学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で43単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は4単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ユニバーサルコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1		4	4	4	4	2	2	0	6		2		2	2	0	0	4	2	2	2	
小計	1		16				4			10					12							43

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、「数学」以外の科目は、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。「数学」を履修した場合は、教養科目群の授業科目「自然と技術」に2単位として含めることができます。

(2) 教養科目群 (16単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を履修してください。

- ・各授業科目は各4単位までしか卒業に必要な単位に認められません。
- ・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

(3) 社会性形成科目群 (4単位)

「ウェルネス総合演習」2単位と「共創型学習」2単位の合計4単位を履修してください。

(4) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を履修してください。ただし、初修外国語でフランス語を選択する場合は、前期月曜日5・6講時の基盤英語の代わりに前期月曜日7・8講時の基盤英語を受講してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

医学部栄養学科の履修のパターン（クラスによって異なります）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位履修してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に1コマずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。中国語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

(5) 基礎科目群（12単位）

基礎数学2単位、基礎化学4単位、基礎化学実験2単位、基礎生物学2単位、基礎生物学実験2単位の合計12単位を下表の通り履修してください。

表3

基礎数学	2 L	統計学	2 L	1年前期	火3・4
基礎化学	4 L	基礎化学Ⅰ・物理化学 (化学平衡と反応速度)	2 L	1年後期	木1・2
		基礎化学Ⅱ・有機化学 (ライフサイエンスの基礎)	2 L	1年前期	木1・2
基礎化学実験	2 E	基礎化学実験	2 E	1年後期	火5・6・7・8
基礎生物学	2 L	基礎生物学N	2 L	1年後期	水7・8
基礎生物学実験	2 E	基礎生物学実験N	2 E	1年前期	水7・8・9・10

2. 3. 医学部保健学科

2. 3. 1. 医学部保健学科看護学専攻

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で 29 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は4単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験		
	1		4	4	4	4		2		6		2		2	0	0	0	0	0	0	0		
小計	1		16					2		10						0							29

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座 1 単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、「数学」以外の科目は、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。「数学」を履修した場合は、教養科目群の授業科目「自然と技術」に 2 単位として含めることができます。

(2) 教養科目群 (16 単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の 4 つの授業科目のそれぞれの中から、2 授業題目 (4 単位) ずつ、合計 8 題目 (16 単位) を履修してください。

- ・各授業科目は各 4 単位までしか卒業に必要な単位に認められません。
- ・ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位) しか履修できません。

(3) 社会性形成科目群 (2 単位)

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の 3 つの授業科目から 1 授業題目 (2 単位) を履修してください。

(4) 基盤形成科目群 (10 単位)

下記の表 2 の通り、外国語については、英語 6 単位、英語以外の外国語 (ドイツ語、フランス語、中国語) から 2 単位の計 8 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 10 単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

医学部保健学科看護学専攻の履修のパターン（クラスによって異なります）：

1年前期	B	B	後期	T	2年前期	C	後期	T
または								
1年前期	B	B	後期	T	2年前期	T	後期	C

Bの再受講は次の期のTを余分に取りすることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位履修してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に1コマずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

2. 3. 2. 医学部保健学科放射線技術科学専攻

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で37単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は4単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1		4	4	4	4		2		6		2		2	2	2	0	2	0	2	0	
小計	1		16					2		10					8							37

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (16単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を履修してください。

- ・各授業科目は各4単位までしか卒業に必要な単位に認められません。
- ・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の3つの授業科目から1授業題目(2単位)を履修してください。

(4) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基盤形成科目群											
外国語の区分											
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学		
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門		
2	2	2	2						2		

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

医学部保健学科放射線技術科学専攻の履修のパターン（クラスによって異なります）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分に取りすることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。

Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位履修してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に1コマずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

(5) 基礎科目群（8単位）

基礎数学2単位、基礎物理学2単位、基礎化学2単位、基礎生物学2単位の合計8単位を下表の通り履修してください。

表3

基礎数学	2 L	微分積分学	2 L	1年前期	月7・8
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1年前期	月5・6
基礎化学	2 L	化学の基礎	2 L	1年前期	水1・2
基礎生物学	2 L	基礎生物学H	2 L	1年後期	水1・2

※基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学）で受講してください。

2. 3. 3. 医学部保健学科検査技術科学専攻

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で33単位です。

表1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は4単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験		
	1		4	4	4	4		2		6		2		2	0	0	0	2	0	2	0		
小計	1		16					2		10						4							33

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、「数学」以外の科目は、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。「数学」を履修した場合は、教養科目群の授業科目「自然と技術」に2単位として含めることができます。

(2) 教養科目群 (16単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を履修してください。

- ・各授業科目は各4単位までしか卒業に必要な単位に認められません。
- ・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の3つの授業科目から1授業題目(2単位)を履修してください。

(4) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群										
外 国 語 の 区 分									情報科学	
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語			
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級		
2	2	2	2						2	

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

医学部保健学科検査技術科学専攻の履修のパターン（クラスによって異なります）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位履修してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に1コマずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

(5) 基礎科目群（4単位）

基礎化学2単位、基礎生物学2単位の合計4単位を下表の通り履修してください。

表3

基礎化学	2 L	化学の基礎	2 L	1年前期	水1・2
基礎生物学	2 L	基礎生物学H	2 L	1年後期	水1・2

3. 歯 学 部

3. 1. 歯学部歯学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で49単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群						合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験
	1		4	4	4	4	2			6	4			2	3	2	2	3	2	2	2
			2(4科目から選択)																		
小計	1		18				2			12					16						49

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (18単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業科目(4単位)以上3授業科目(6単位)以内を履修し、合計9科目(18単位)を履修してください。

- ・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。
- ・ゼミナール形式の授業(授業科目にゼミナールと表示)は、1授業科目(2単位)しか履修できません。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の3つの授業科目から1授業科目(2単位)を履修してください。

(4) 基盤形成科目群 (12単位)

下記の表2の通り、外国語科目については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から4単位の計10単位、それに情報科学入門2単位の合計12単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									情報科学
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	
2	2	2	4						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

歯学部歯学科の履修のパターン：

1年前期 B B 後期 T T 2年前期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（4単位）

ひとつの外国語を4単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を前期に2単位、「初級」を後期に2単位の計4単位履修してください。

「入門」および「初級」は指定されたペアのクラスで受講してください。クラスはA、B、Cなどと表記されています。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はドイツ語はクラスごとに1単位ずつ、フランス語と中国語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で、「初級」は「初級」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

※ 中国語は「入門」の単位を取得していなければ、「初級」を受講することはできません。

(5) 基礎科目群（16単位）

基礎数学3単位、基礎物理学2単位、基礎物理学実験2単位、基礎化学3単位、基礎化学実験2単位、基礎生物学2単位、基礎生物学実験2単位の合計16単位を下表の通り履修してください。

表3

基礎数学	3 S	微分積分学	1 S	1年前期	火7・8
		統計学	1 S	1年後期	火7・8
		医療情報処理	1 S	1年前期	金5・6
基礎物理学	2 S	基礎物理学Ⅰ・物理学概論	1 S	1年前期	火5・6
		基礎物理学Ⅱ・物理学概論	1 S	1年後期	火5・6
基礎物理学実験	2 E	基礎物理学実験A	2 E	1年後期	金7・8・9・10
		基礎物理学実験B	2 E	1年後期	水7・8・9・10
基礎化学	3 S	基礎化学Ⅰ・物理化学（平衡と反応速度）	1 S	1年前期	水5・6
		基礎化学ⅡA・有機化学（ライフサイエンスの基礎）	1 S	1年後期	月5・6
		基礎化学ⅡB・有機化学（ライフサイエンスの基礎）	1 S	2年前期	火1・2
基礎化学実験	2 E	基礎化学実験	2 E	2年前期	水7・8・9・10
基礎生物学	2 S	基礎生物学DⅠ	1 S	1年前期	金1・2
		基礎生物学DⅡ	1 S	1年後期	木3・4
基礎生物学実験	2 E	基礎生物学実験A	2 E	1年後期	水7・8・9・10
		基礎生物学実験B	2 E	1年後期	金7・8・9・10

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学または電磁気）で受講してください。

3. 2. 歯学部口腔保健学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で29単位です。

表1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は4単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験		
	1		4	4	4	4		2		6		2		2	0	0	0	0	0	0	0		
小計	1		16					2		10						0							29

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、「数学」以外の科目は、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。「数学」を履修した場合は、教養科目群の授業科目「自然と技術」に2単位として含めることができます。

(2) 教養科目群 (16単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を履修してください。

- ・各授業科目は各4単位までしか卒業に必要な単位に認められません。
- ・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

※ 社会福祉士国家試験の受験資格を取得しようとする者は、「人間と生命」から「心理学概論」を履修してください。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の3つの授業科目から1授業題目(2単位)を履修してください。

(4) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

歯学部口腔保健学科の履修のパターン：

1年前期 B B 後期 T T 2年前期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位履修してください。中国語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に1コマずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

4. 薬 学 部

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で49単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群						合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1		4	4	4	4	2			4	4			2	4	2	0	6	0	2	0	
			6（2科目群の科目から選択）																			
小計	1		24							10					14						49	

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (24単位)

教養科目群から16単位、社会性形成科目群から2単位、教養科目群と社会性形成科目群から6単位の合計24単位を履修してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を履修してください。

・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。

ただし、③教養科目群と社会性形成科目群で履修した教養科目群の単位数を含みます。

・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の3つの授業科目から1授業題目(2単位)を履修してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2科目群の授業科目から3授業題目(6単位)を履修してください。

(3) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語4単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から4単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		情報科学
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	情 報 科 学 入 門
1	1	2	4						2

① 英語（4単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）1単位、主題別英語（Tと略記）1単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて4単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

薬学部の履修のパターン：

1年前期 B 後期 T 2年前期 C

Bの再受講は次の期のTを余分に取りすることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限1単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（4単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、ドイツ語は「入門」を1年次前期・後期に各1単位、「初級」を2年次前期・後期に各1単位の計4単位履修してください。フランス語、中国語はペアのクラスで「入門」を1年次前期に2単位、「初級」を1年次後期に2単位の計4単位履修してください。

「入門」および「初級」は指定されたクラスで受講してください。

※ ドイツ語「入門」を2単位、フランス語「入門」を2単位、あわせて4単位のように、2つの外国語で各2単位、計4単位履修することもできます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語と中国語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で、「初級」は「初級」で受講してください。

再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

※ 中国語は「入門」の単位を取得していなければ、「初級」を受講することはできません。

(4) 基礎科目群（14単位）

基礎数学4単位、基礎物理学2単位、基礎化学6単位、基礎生物学2単位の合計14単位を下表の通り履修してください。

表3

基礎数学	4 L	微分積分学	2 L	2年前期	月5・6
		統計学	2 L	2年後期	月5・6
基礎物理学	2 L	力学及び熱力学	2 L	1年前期	月1・2
基礎化学	6 L	基礎化学Ⅰ・電子と有機化学	2 L	1年前期	水9・10
		基礎化学Ⅱ・原子と分子	2 L	1年後期	水7・8
		基礎化学Ⅲ・細胞生物化学の基礎	2 L	1年後期	金5・6
基礎生物学	2 L	基礎生物学P	2 L	1年前期	月5・6

5. 工 学 部

5. 1. 工学部建設工学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で 41 単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1		2	2	2	4	2			6	2			2	8	2	0	2	0	0	0
			6 (2科目群の科目から選択)																		
小計	1		18							10				12							41

(1) 大学入門科目群 (1 単位)

大学入門講座 1 単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (18 単位)

教養科目群から 10 単位、社会性形成科目群から 2 単位、教養科目群と社会性形成科目群から 6 単位の合計 18 単位を履修してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」の 3 授業科目のそれぞれの中から 1 授業題目 (2 単位) ずつ、「自然と技術」から 2 授業題目 (4 単位) を履修し、合計 5 授業題目 (10 単位) を履修してください。

・各授業科目は各 6 単位までしか卒業に必要な単位に認められません。

ただし、③教養科目群と社会性形成科目群で履修した教養科目群の単位数を含みます。

・ゼミナール形式の授業 (授業題目にゼミナールと表示) は、1 授業題目 (2 単位) しか履修できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の 3 つの授業科目から 1 授業題目 (2 単位) を履修してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2 科目群の授業科目から 3 授業題目 (6 単位) を履修してください。

(3) 基盤形成科目群 (10 単位)

下記の表 2 の通り、外国語については、英語 6 単位、英語以外の外国語 (ドイツ語、フランス語、中国語) から 2 単位の計 8 単位、それに情報科学入門 2 単位の合計 10 単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									情報科学
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	情 報 科 学 入 門
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

工学部建設工学科の履修のパターン（クラスによって異なります）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位履修してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に1コマずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

(4) 基礎科目群（12単位）

基礎数学8単位、基礎物理学2単位、基礎化学2単位の合計12単位を指定された時間割のクラスで履修してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	水1・2
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	水1・2
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	金3・4
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	金3・4
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1年前期	月5・6
基礎化学	2 L	基礎化学概論	2 L	1年後期	木1・2

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学）で受講してください。

5. 2. 工学部機械工学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で41単位です。

表1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群						合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ユニバーサルコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験
	1		4	4	4	4	2	0	0	6	2		2	8	2	0	0	0	0	0	0
			2(4科目から選択)																		
小計	1		18				2			10					10						41

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (18単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)以上3授業題目(6単位)以内を履修し、合計9題目(18単位)を履修してください。

- ・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。
- ・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」2単位を履修してください。

(4) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

工学部機械工学科の履修のパターン（クラスによって異なります）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位履修してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に1コマずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。ドイツ語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

(5) 基礎科目群（10単位）

基礎数学8単位、基礎物理学2単位の合計10単位を指定された時間割のクラスで履修してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	木1・2
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	木1・2
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	水5・6
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	水5・6
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1年前期	月5・6

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学）で受講してください。

5. 3. 工学部化学応用工学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で41単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1		4		4	4	2	0	0	6		2		2	8	4	0	0	2	0	0	
			2(4科目から選択)																			41
小計	1		14				2			10					14							

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (14単位)

「歴史と文化」および「人間と生命」の2つの授業科目から最低2授業題目(4単位)、「生活と社会」、「自然と技術」の2つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)以上3授業題目(6単位)以内を履修し、合計7題目(14単位)を履修してください。

- 各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。

ただし、「歴史と文化」および「人間と生命」の2つの授業科目を併せて6単位しか卒業に必要な単位に認められません。

- ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」2単位を履修してください。

(4) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									情報科学
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	情 報 科 学 入 門
2	2	2	2						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

工学部化学応用工学科の履修のパターン（クラスによって異なります）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位履修してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に1コマずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。ドイツ語、中国語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

(5) 基礎科目群（14単位）

基礎数学8単位、基礎物理学4単位、基礎化学実験2単位の合計14単位を指定された時間割のクラスで履修してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	水1・2
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	水1・2
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	金3・4
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	金3・4
基礎物理学	4 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1年前期	水5・6
		基礎物理学 g・電磁気学概論	2 L	1年後期	水5・6
基礎化学実験	2 E	基礎化学実験	2 E	2年後期	水5・6・7・8

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学または電磁気）で受講してください。

5. 4. 工学部生物工学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で45単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は4単位)				社会性形成科目群 (各科目上限は2単位)			基盤形成科目群					基礎科目群							合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験		
	1		4	4	4	4		2		6		2		2	8	4	0	2	0	2	0		
小計	1		16					2		10						16							45

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (16単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を履修してください。

- ・各授業科目は各4単位までしか卒業に必要な単位に認められません。
- ・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の3つの授業科目から1授業題目(2単位)を履修してください。

(4) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	2						2

① 英語（6 単位）

表 2 の通り、基盤英語（B と略記）2 単位、主題別英語（T と略記）2 単位、発信型英語（C と略記）2 単位の併せて 6 単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は 1 科目 1 単位ですが、発信型英語は 2 単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

工学部生物工学科の履修のパターン（クラスによって異なります）：

1 年前期 B B 後期 T 2 年前期 C 後期 T
または
1 年前期 B B 後期 T 2 年前期 T 後期 C

B の再受講は次の期の T を余分にとることで可能です。T の再受講は T で、C については原則 C を再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によっては C は T ふたつで代替可能とします。B は上限 2 単位とし、B だけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（2 単位）

ひとつの外国語を 2 単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計 2 単位履修してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に 1 コマずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1 週間に指定された同じクラスで 2 回受講し、半期（半年）で 2 単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では 2 つのクラスで 2 単位を一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

(5) 基礎科目群（16 単位）

基礎数学 8 単位、基礎物理学 4 単位、基礎化学 2 単位、基礎生物学 2 単位の合計 16 単位を下表の通り履修してください。

表 3

基礎数学	8 L	線形代数学 I	2 L	1 年前期	水 1・2
		線形代数学 II	2 L	1 年後期	水 1・2
		微分積分学 I	2 L	1 年前期	金 3・4
		微分積分学 II	2 L	1 年後期	金 3・4
基礎物理学	4 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1 年前期	水 7・8
		基礎物理学 g・電磁気学概論	2 L	1 年後期	水 7・8
基礎化学	2 L	基礎化学 i・化学結合論	2 L	1 年前期	火 5・6
基礎生物学	2 L	基礎生物学 T	2 L	1 年前期	月 5・6

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学または電磁気）で受講してください。

5. 5. 工学部電気電子工学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で45単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群						合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1		4	4	4	4	2	0	0	6	2			2	8	2	0	0	0	0	0	
	6（2科目群の科目から選択）																					
小計	1		24							10					10						45	

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (24単位)

教養科目群から16単位、社会性形成科目群からウェルネス総合演習2単位、教養科目群と社会性形成科目群から6単位の合計24単位を履修してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を履修してください。

・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。

ただし、③教養科目群と社会性形成科目群で履修した教養科目群の単位数を含みます。

・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」2単位を履修してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2科目群の授業科目から3授業題目(6単位)を履修してください。

(3) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2			2				2

① 英語（6 単位）

表 2 の通り、基盤英語（B と略記）2 単位、主題別英語（T と略記）2 単位、発信型英語（C と略記）2 単位の併せて 6 単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は 1 科目 1 単位の授業ですが、発信型英語は 2 単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

工学部電気電子工学科の履修のパターン（クラスによって異なります）：

1 年前期 B B 後期 T 2 年前期 C 後期 T
または
1 年前期 B B 後期 T 2 年前期 T 後期 C

B の再受講は次の期の T を余分にとることで可能です。T の再受講は T で、C については原則 C を再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によっては C は T ふたつで代替可能とします。B は上限 2 単位とし、B だけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（2 単位）

ひとつの外国語を 2 単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計 2 単位履修してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に 1 コマずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。中国語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1 週間に指定された同じクラスで 2 回受講し、半期（半年）で 2 単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では 2 つのクラスで 2 単位を一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

(4) 基礎科目群（10 単位）

基礎数学 8 単位、基礎物理学 2 単位の合計 10 単位を指定された時間割のクラスで履修してください。

表 3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1 年前期	木 1・2
		線形代数学Ⅱ	2 L	1 年後期	木 1・2
		微分積分学Ⅰ	2 L	1 年前期	水 5・6
		微分積分学Ⅱ	2 L	1 年後期	水 5・6
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1 年前期	火 5・6

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学）で受講してください。

5. 6. 工学部知能情報工学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で43単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ユニバーシティー・コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1		4	4	4	4	2	0	0	6	2	0	8	2	0	0	0	0	0	0		
			6（4科目から選択）																			
小計	1		22				2			8					10							43

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (22単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)以上3授業題目(6単位)以内を履修し、合計11題目(22単位)を履修してください。

- ・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。
- ・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」2単位を履修してください。

(4) 基盤形成科目群 (8単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の合計8単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	2						0

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

工学部知能情報工学科の履修のパターン（クラスによって異なります）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分に取りすることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位履修してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に1コマずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

(5) 基礎科目群（10単位）

基礎数学8単位、基礎物理学2単位の合計10単位を指定された時間割のクラスで履修してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	月7・8
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	月7・8
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	水7・8
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	水7・8
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1年後期	金7・8

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学）で受講してください。

5. 7. 工学部光応用工学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で43単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1		4	4	4	4	2	0	0	6	2			2	8	2	0	2	0	0	0	
			2(2科目群の科目から選択)																			
小計	1		20							10					12							43

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業です。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (20単位)

教養科目群から16単位、社会性形成科目群からウェルネス総合演習2単位、教養科目群と社会性形成科目群から6単位の合計20単位を履修してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を履修してください。

・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。

ただし、③教養科目群と社会性形成科目群で履修した教養科目群の単位数を含みます。

・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」2単位を履修してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2科目群の授業科目から1授業題目(2単位)を履修してください。

(3) 基盤形成科目群 (10単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)から2単位の計8単位、それに情報科学入門2単位の合計10単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2			2				2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

工学部光応用工学科の履修のパターン（クラスによって異なります）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② 初修外国語（2単位）

ひとつの外国語を2単位のまとまりとして、ドイツ語、フランス語、中国語からいずれかひとつを選択し、「入門」を計2単位履修してください。

「入門」は指定されたクラスで受講してください。ドイツ語および中国語は前期・後期に1コマずつ、フランス語は前期にペアのクラスで受講してください。中国語の指定クラスは「全学共通教育時間割クラス分け一覧」を参照してください。

「ペアのクラスで受講」とは、1週間に指定された同じクラスで2回受講し、半期（半年）で2単位を履修する方法です。単位認定はフランス語では2つのクラスで2単位を一括認定されます。

ドイツ語「入門」は、他学科向けのクラスであっても、授業担当教員に相談のうえ受講することができます。

再受講については、原則として、「入門」で受講してください。再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

(4) 基礎科目群（12単位）

基礎数学8単位、基礎物理学2単位、基礎化学2単位の合計12単位を下表の通り履修してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	月7・8
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	月7・8
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	火3・4
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	火5・6
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学概論	2 L	1年前期	水1・2
基礎化学	2 L	基礎化学 i・化学結合論	2 L	1年前期	火5・6

※ 基礎物理学の再受講は、薬学部対象の科目を除く内容の同じ科目（力学）で受講してください。

6. 工学部夜間主コース

6. 1. 工学部夜間主コース 建設工学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で37単位です。

表1

(単位数)

区分	大学入門科目群	教養科目群 (各科目上限は6単位)	社会性形成科目群	基盤形成科目群	基礎科目群	合計
科目等	大学入門講座 高大接続科目	歴史と文化 人間と生命 生活と社会 自然と技術	ウ総合演習 共創型学習 コミュニケーション	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 情報科学	基礎数学 基礎物理学 基礎物理学実験 基礎化学 基礎化学実験 基礎生物学 基礎生物学実験	
	1	2 2 2 4 6(2科目群の科目から選択)	2	6 0 2	8 2 0 0 0 0 0	
小計	1	18		8	10	37

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (18単位)

教養科目群から10単位、社会性形成科目群から2単位、教養科目群と社会性形成科目群から6単位の合計18単位を履修してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」の3授業科目のそれぞれの中から1授業科目(2単位)ずつ、「自然と技術」から2授業科目(4単位)を履修し、合計5授業科目(10単位)を履修してください。

・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。

ただし、③教養科目群と社会性形成科目群で履修した教養科目群の単位数を含みます。

・ゼミナール形式の授業(授業科目にゼミナールと表示)は、1授業科目(2単位)しか履修できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の3つの授業科目から1授業科目(2単位)を履修してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2科目群の授業科目から3授業科目(6単位)を履修してください。

※ 教養科目群の授業科目は、後期に限り、昼間コースから2授業科目(4単位)まで履修することができます。

※ 共創型学習の授業科目は、昼間コースから1授業科目(2単位)のみ履修することができます。

(3) 基盤形成科目群 (8単位)

次頁の表2の通り、外国語については、英語6単位、それに情報科学入門2単位の合計8単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		情報科学
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	情 報 科 学 入 門
2	2	2	0						2

① 英語 (6 単位)

表 2 の通り、基盤英語 (B と略記) 2 単位、主題別英語 (T と略記) 2 単位、発信型英語 (C と略記) 2 単位の併せて 6 単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は 1 科目 1 単位の授業ですが、発信型英語は 2 単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

工学部建設工学科夜間主コースの履修のパターン (クラスによって異なります) :

1 年前期 B B 後期 T 2 年前期 C 後期 T
または
1 年前期 B B 後期 T 2 年前期 T 後期 C

B の再受講は次の期の T を余分に取りすることで可能です。T の再受講は T で、C については原則 C を再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によっては C は T ふたつで代替可能とします。B は上限 2 単位とし、B だけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

※ 所要単位数を超えて修得した外国語科目の単位は、4 単位を上限として教養科目群の単位に含めることができます。

(4) 基礎科目群 (10 単位)

基礎数学 8 単位、基礎物理学 2 単位の合計 10 単位を下表の通り履修してください。

表 3

基礎数学	8 L	線形代数学 I	2 L	1 年前期	火 13・14
		線形代数学 II	2 L	1 年後期	火 13・14
		微分積分学 I	2 L	1 年前期	水 11・12
		微分積分学 II	2 L	1 年後期	水 11・12
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学	2 L	1 年前期	木 13・14

※ 昼間コースの授業を履修する場合は、受講票 (マークカード) を学務課教育支援係へ提出してください。(Web では履修登録できません。)

なお、受講票の提出期限は、Web 登録と同じ (初回授業前日の 13 時まで) です。

6. 2. 工学部夜間主コース 機械工学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で37単位です。

表1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ユニバーサルコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験
	1		4	4	4	4	2	0	0	6		0		2	4	2	0	0	0	0	0
			4(4科目から選択)																		
小計	1		20				2			8				6							37

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (20単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)以上3授業題目(6単位)以内を履修し、合計10題目(20単位)を履修してください。

- ・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。
- ・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

※ 教養科目群の授業題目は、後期に限り、昼間コースから2授業題目(4単位)まで履修することができます。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」2単位を履修してください。

(4) 基盤形成科目群 (8単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位、それに情報科学入門2単位の合計8単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									情報科学
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	
2	2	2	0						2

① 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

工学部機械工学科夜間主コースの履修のパターン（クラスによって異なります）：

1年前期 B 後期 T 2年前期 B 後期 T 3年前期 C
または
1年前期 B 後期 T 2年前期 B 後期 T 3年後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

※ 所要単位数を超えて修得した外国語科目の単位は、4単位を上限として教養科目群の単位に含めることができます。

(5) 基礎科目群（6単位）

基礎数学4単位、基礎物理学2単位の合計6単位を下表の通り履修してください。

表3

基礎数学	4 L	微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	水11・12
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	水11・12
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学	2 L	1年前期	木13・14

※ 昼間コースの授業を履修する場合は、受講票（マークカード）を学務課教育支援係へ提出してください。（Webでは履修登録できません。）

なお、受講票の提出期限は、Web登録と同じ（初回授業前日の13時まで）です。

6. 3. 工学部夜間主コース 化学応用工学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で37単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群						合計	
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1		4	4	4	4	2	0	0	4	2	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	
			6(4科目から選択)																			
小計	1		22				2			8					4						37	

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (22単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)以上3授業題目(6単位)以内を履修し、合計11題目(22単位)を履修してください。

- ・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。
- ・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

※ 教養科目群の授業題目は、後期に限り、昼間コースから2授業題目(4単位)まで履修することができます。

※ 所要単位数を超えて修得した教養科目群の単位は、10単位まで専門科目の選択科目に読み替えることができます。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」2単位を履修してください。

(4) 基盤形成科目群 (8単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語4単位とドイツ語2単位の計6単位、それに情報科学入門2単位の合計8単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群										
外 国 語 の 区 分									情報科学	
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語			
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	情 報 科 学 入 門	
2	2		2	0					2	

① 英語（4単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）あるいは発信型英語（Cと略記）の中から2単位の併せて4単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

工学部化学応用工学科夜間主コースの履修のパターン（クラスによって異なります）：

- ・ 1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期
- ・ 1年前期 B B 後期 T 2年前期 後期 T
- ・ 1年前期 B B 後期 2年前期 C 後期
- ・ 1年前期 B B 後期 2年前期 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分に取りすることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② ドイツ語（2単位）

ドイツ語入門を前期・後期に各1単位の計2単位履修してください。

再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

※ 所要単位数を超えて修得した外国語科目の単位は、6単位を上限として教養科目群の単位に含めることができます。

(5) 基礎科目群（4単位）

基礎数学および基礎物理学から2授業題目4単位を下表の通り履修してください。

表3

右の題目から 4単位を選択	基礎数学	4 L	微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	水11・12
			微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	水11・12
	基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学	2 L	1年前期	木13・14

※ 化学応用工学科夜間主コースの学生が、所要単位を超える基礎科目を修得した場合の超過単位は、外国語科目の超過単位と併せて8単位まで教養科目群の単位に含めることができます。

※ 昼間コースの授業を履修する場合は、受講票（マークカード）を学務課教育支援係へ提出してください。（Webでは履修登録できません。）

なお、受講票の提出期限は、Web登録と同じ（初回授業前日の13時まで）です。

6. 4. 工学部夜間主コース 生物工学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で37単位です。

表1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群						合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンコミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験
	1		4	4	4	4	2			4	2	0	2	4	0	0	0	0	0	0	
			6(4科目から選択)																		
小計	1		22				2			8					4						37

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (22単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)以上3授業題目(6単位)以内を履修し、合計11題目(22単位)を履修してください。

- ・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。
- ・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

※ 教養科目群の授業題目は、後期に限り、昼間コースから2授業題目(4単位)まで履修することができます。

※ 所要単位数を超えて修得した教養科目群の単位は、10単位まで専門科目の選択科目に読み替えることができます。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」、「共創型学習」、「ヒューマンコミュニケーション」の3つの授業科目から1授業題目(2単位)履修してください。

※ 共創型学習の授業題目は、昼間コースから1授業題目(2単位)のみ履修することができます。

(4) 基盤形成科目群 (8単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語4単位とドイツ語2単位の計6単位、それに情報科学入門2単位の合計8単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤	主題別	発信型	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
英語	英語	英語							
2	2	0	2		0				2

① 英語（4単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位の併せて4単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

工学部生物工学科夜間主コースの履修のパターン（クラスによって異なります）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期

Bの再受講は次の期のTを余分にとることで可能です。Tの再受講はTを再受講する必要があります。

ただし、Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② ドイツ語（2単位）

ドイツ語入門を前期・後期に各1単位の計2単位履修してください。

再受講の具体的な方法については、各授業の担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

※ 所要単位数を超えて修得した外国語科目の単位は、4単位を上限として教養科目群の単位に含めることができます。

(4) 基礎科目群（4単位）

基礎数学および基礎物理学から2授業題目4単位を下表の通り履修してください。

表3

右の題目から 4単位を選択	基礎数学	4 L	微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	水11・12
			微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	水11・12
	基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学	2 L	1年前期	木13・14

※ 昼間コースの授業を履修する場合は、受講票（マークカード）を学務課教育支援係へ提出してください。（Webでは履修登録できません。）

なお、受講票の提出期限は、Web登録と同じ（初回授業前日の13時まで）です。

6. 5. 工学部夜間主コース 電気電子工学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で43単位です。

表 1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群				基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	コミュニケーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験
	1		4	4	4	4	2	0	0	4	2	0	2	8	2	0	0	0	0	0	
	6(2科目群の科目から選択)																				
小計	1		24						8				10							43	

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群・社会性形成科目群 (24単位)

教養科目群から16単位、社会性形成科目群からウェルネス総合演習2単位、教養科目群と社会性形成科目群から6単位の合計24単位を履修してください。

① 教養科目群

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)ずつ、合計8題目(16単位)を履修してください。

・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。

ただし、③教養科目群と社会性形成科目群で履修した教養科目群の単位数を含みます。

・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

② 社会性形成科目群

「ウェルネス総合演習」2単位を履修してください。

③ 教養科目群と社会性形成科目群

2科目群の授業科目から3授業題目(6単位)を履修してください。

※ 教養科目群の授業題目は、後期に限り、昼間コースから2授業題目(4単位)まで履修することができます。

※ 共創型学習の授業題目は、昼間コースから1授業題目(2単位)のみ履修することができます。

(3) 基盤形成科目群 (8単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語4単位とドイツ語2単位の計6単位、それに情報科学入門2単位の合計8単位が必修です。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表 2

(単位数)

基 盤 形 成 科 目 群									
外 国 語 の 区 分									
英 語			ド イ ツ 語		フ ラ ン ス 語		中 国 語		情報科学
基 盤 英 語	主 題 別 英 語	発 信 型 英 語	ド イ ツ 語 入 門	ド イ ツ 語 初 級	フ ラ ン ス 語 入 門	フ ラ ン ス 語 初 級	中 国 語 入 門	中 国 語 初 級	情 報 科 学 入 門
1	1	2	2		0				2

① 英語（4単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）1単位、主題別英語（Tと略記）1単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて4単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

工学部電気電子工学科夜間主コースの履修のパターン：

1年前期 B 後期 T 2年前期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることによって可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。

Bは上限1単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

② ドイツ語（2単位）

ドイツ語入門を前期・後期に各1単位の計2単位履修してください。

再受講については、原則として、「入門」は「入門」で受講してください。

（選択できるクラスは時間割上少ないので、注意して受講することが必要です。）

再受講の具体的な方法については、各授業担当教員または学務課教育支援係に問い合わせてください。

※ 所要単位数を超えて修得した外国語科目の単位は、4単位を上限として教養科目群の単位に含めることができます。

(4) 基礎科目群（10単位）

基礎数学8単位、基礎物理学2単位の合計10単位を下表の通り履修してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	火13・14
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	火13・14
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	水11・12
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	水11・12
基礎物理学	2 L	基礎物理学 f・力学	2 L	1年前期	木13・14

※ 昼間コースの授業を履修する場合は、受講票（マークカード）を学務課教育支援係へ提出してください。（Webでは履修登録できません。）

なお、受講票の提出期限は、Web登録と同じ（初回授業前日の13時まで）です。

6. 6. 工学部夜間主コース 知能情報工学科

卒業に必要な共通教育の単位数は総計で37単位です。

表1

(単位数)

区分	大学入門科目群		教養科目群 (各科目上限は6単位)				社会性形成科目群			基盤形成科目群					基礎科目群							合計
科目等	大学入門講座	高大接続科目	歴史と文化	人間と生命	生活と社会	自然と技術	ウェルネス総合演習	共創型学習	ヒューマンシミュレーション	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	情報科学	基礎数学	基礎物理学	基礎物理学実験	基礎化学	基礎化学実験	基礎生物学	基礎生物学実験	
	1		4	4	4	4	2	0	0	6		0		0	8	0	0	0	0	0	0	
			4(4科目から選択)																			
小計	1		20				2			6					8							37

(1) 大学入門科目群 (1単位)

大学入門講座1単位が必修の単位です。

高大接続科目の「数学」、「物理学」、「化学」、「生物学」は、入学時までに履修したことがない科目についての補習的な内容の授業で、昼間コースに開講されています。自由に選択できる科目ですが、卒業に必要な単位として認められないので注意してください。

(2) 教養科目群 (20単位)

「歴史と文化」、「人間と生命」、「生活と社会」、「自然と技術」の4つの授業科目のそれぞれの中から、2授業題目(4単位)以上3授業題目(6単位)以内を履修し、合計10題目(20単位)を履修してください。

- ・各授業科目は各6単位までしか卒業に必要な単位に認められません。
- ・ゼミナール形式の授業(授業題目にゼミナールと表示)は、1授業題目(2単位)しか履修できません。

※ 教養科目群の授業題目は、後期に限り、昼間コースから2授業題目(4単位)まで履修することができます。

(3) 社会性形成科目群 (2単位)

「ウェルネス総合演習」2単位を履修してください。

(4) 基盤形成科目群 (6単位)

下記の表2の通り、外国語については、英語6単位が必修です。

情報科学については、専門科目で履修します。

基盤形成科目群については、受講者の調整を行う必要上クラス指定があります。

表2

(単位数)

基盤形成科目群									
外国語の区分									
英語			ドイツ語		フランス語		中国語		情報科学
基盤英語	主題別英語	発信型英語	ドイツ語入門	ドイツ語初級	フランス語入門	フランス語初級	中国語入門	中国語初級	情報科学入門
2	2	2	0						0

○ 英語（6単位）

表2の通り、基盤英語（Bと略記）2単位、主題別英語（Tと略記）2単位、発信型英語（Cと略記）2単位の併せて6単位を履修してください。

基盤英語と主題別英語は1科目1単位の授業ですが、発信型英語は2単位の授業です。

次のような履修のパターンが用意されています。

工学部知能情報工学科夜間主コースの履修のパターン（クラスによって異なります）：

1年前期 B B 後期 T 2年前期 C 後期 T
または
1年前期 B B 後期 T 2年前期 T 後期 C

Bの再受講は次の期のTを余分にとることで可能です。Tの再受講はTで、Cについては原則Cを再受講する必要がありますが、やむを得ない事情によってはCはTふたつで代替可能とします。Bは上限2単位とし、Bだけで履修要件の単位数までそろえることはできません。

※ 所要単位数を超えて修得した外国語科目の単位は、4単位を上限として教養科目群の単位に含めることができます。

(5) 基礎科目群（8単位）

基礎数学8単位を下表の通り履修してください。

表3

基礎数学	8 L	線形代数学Ⅰ	2 L	1年前期	火13・14
		線形代数学Ⅱ	2 L	1年後期	火13・14
		微分積分学Ⅰ	2 L	1年前期	水11・12
		微分積分学Ⅱ	2 L	1年後期	水11・12

※ 昼間コースの授業を履修する場合は、受講票（マークカード）を学務課教育支援係へ提出してください。（Webでは履修登録できません。）

なお、受講票の提出期限は、Web登録と同じ（初回授業前日の13時まで）です。

7. 留 学 生

留学生のみなさんは、所属する学部学科の履修要件を満たすように履修してください。

日本事情には、日本事情Ⅰ～Ⅳがあり、教養科目群の中の授業（歴史と文化，人間と生命，生活と社会，自然と技術）に読み替えることができます。具体的な科目については年度により異なることがありますので、日本事情担当教員にお問い合わせください。

日本語は、基盤形成科目群に、日本語１～８まで開設され、１年生，２年生共にどの授業も受講することができます。日本語は外国語の単位として振り替えることができます。

IV 全学共通教育 開講授業科目・ 授業題目・担当者一覧(2008年度)

Ⅳ. 全学共通教育 開講授業科目・授業題目・担当者一覧 (2008年度)

大学入門科目群

授業科目(新)	授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
大学入門講座	大学入門講座 (総合科学部)			教務・学生委員	前	総科
大学入門講座	大学入門講座 (医・医)			教務・学生委員	前	医
大学入門講座	大学入門講座 (医・栄養)			教務・学生委員	前	栄
大学入門講座	大学入門講座 (医・保健)			教務・学生委員	前	保
大学入門講座	大学入門講座 (歯学部)			教務・学生委員	前	歯
大学入門講座	大学入門講座 (薬学部)			教務・学生委員	前	薬
大学入門講座	大学入門講座 (工・建設)			教務・学生委員	前	工・建
大学入門講座	大学入門講座 (工・機械)			教務・学生委員	前	工・機
大学入門講座	大学入門講座 (工・化学)			教務・学生委員	前	工・化
大学入門講座	大学入門講座 (工・生物)			教務・学生委員	前	工・生
大学入門講座	大学入門講座 (工・電気電子)			教務・学生委員	前	工・電
大学入門講座	大学入門講座 (工・知能)			教務・学生委員	前	工・知
大学入門講座	大学入門講座 (工・光)			教務・学生委員	前	工・光
大学入門講座	大学入門講座 (工・建設)			教務・学生委員	前	工・建・夜
大学入門講座	大学入門講座 (工・機械)			教務・学生委員	前	工・機・夜
大学入門講座	大学入門講座 (工・化学)			教務・学生委員	前	工・化・夜
大学入門講座	大学入門講座 (工・生物)			教務・学生委員	前	工・生・夜
大学入門講座	大学入門講座 (工・電気電子)			教務・学生委員	前	工・電・夜
大学入門講座	大学入門講座 (工・知能)			教務・学生委員	前	工・知・夜
高大接続科目	数学	数学		大沼	前	総科
高大接続科目	物理学	物理学		齋藤 (隆)	前	総科
高大接続科目	化学－化学のしくみ－			菊池	前	総科
高大接続科目	生物学－基礎からの細胞生物学－	生物学		大橋 (眞)	前	総科

歴史と文化

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
日本の古代史	日本史	人文科学	衣川	前	総科
古代・中世日本の社会	日本史	人文科学	衣川	後	総科
戦国時代から近世社会への変化	日本史	人文科学	桑原 (恵)	前	総科
戦国時代から江戸時代への変化	日本史	人文科学	桑原 (恵)	前	総科
江戸時代後期の社会変動と明治維新	日本史	人文科学	桑原 (恵)	後	総科
現代世界の展開	外国史	人文科学	佐久間	前	総科
ヨーロッパ世界の展開	外国史	人文科学	佐久間	後	総科
アメリカ社会の形成と展開	外国史	人文科学	西出	前	総科
アメリカ社会の諸問題	外国史	人文科学	西出	後	総科
アジアの近代と日本	外国史	人文科学	葭森	前	総科
映画から見る現代アジアの諸問題	外国史	人文科学	葭森	前	総科
日本古代文学Ⅰ	日本文学	人文科学	堤	前	総科
日本古代文学Ⅱ	日本文学	人文科学	堤	後	総科
明治文学を読む	日本文学	人文科学	鳥羽	前	総科

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
戦後文学を読む	日本文学	人文科学	鳥羽	後	総科
日本中近世文学Ⅰ	日本文学	人文科学	原水	前	総科
日本中近世文学Ⅱ	日本文学	人文科学	原水	後	総科
日本語の音声	日本語学	人文科学	岸江	前	総科
方言と社会	日本語学	人文科学	岸江	後	総科
日本語について考える	日本語学	人文科学	仙波	前	総科
日本のことば遊び	日本語学	人文科学	仙波	前	総科
現代日本語の諸問題	日本語学	人文科学	仙波	後	総科
中国占夢小説研究	外国文学	人文科学	有馬	前	総科
中国文学における幻術－妖術－呪術	外国文学	人文科学	有馬	後	総科
ドイツの伝説と英雄叙事詩	外国文学	人文科学	石川	前	総科
ドイツ・北欧の伝説とオペラ	外国文学	人文科学	石川	後	総科
東アジア考古学概論Ⅰ	考古学	人文科学	東	前	総科
東アジア考古学概論Ⅱ	考古学	人文科学	東	後	総科
考古学概論Ⅰ	考古学	人文科学	中村（豊）	前	埋蔵文化
考古学概論Ⅱ	考古学	人文科学	中村（豊）	後	埋蔵文化
ビジュアルコミュニケーション	芸術	人文科学	石井（健）	前	総科
写真画像保存技術概論	芸術	人文科学	石井（健）	後	総科
民族音楽入門	芸術	人文科学	片岡	前・後	総科
絵画表現と技法の基礎	芸術	人文科学	平木	前	総科
絵画表現と技法の応用	芸術	人文科学	平木	後	総科
西洋音楽の歴史	芸術	人文科学	宮澤	前・後	総科
異文化／自文化研究へのいざない	文化人類学	人文科学	高橋（晋）	前	総科
沖縄社会文化論	文化人類学	人文科学	高橋（晋）	後	総科
ゼミナール「日独比較文化ゼミナール」	人文科学ゼミナール	人文科学	石川	後	総科
資本主義の歩み	経済学	社会科学	中嶋（信）	後	総科
中東経済入門	経済学	社会科学	水島	前	総科
世界遺産が語る地理と歴史	地理学	社会科学	豊田	前	総科
日本図の歴史	地理学	社会科学	平井	前・後	総科
徳島を考える	総合科目	総合	平井 他	前	総科
中国語Ⅰ	中国語（２）	中国語	邵	前・後	総科
中国語Ⅱ	中国語（２）	中国語	葭森	前・後	総科

人間と生命

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
知の探求と現代	哲学	人文科学	石田（三）	前	総科
ことばの力	哲学	人文科学	山口（裕）	前	総科
古代ギリシアの人と思想	哲学	人文科学	吉田（昌）	前	総科
生命倫理学研究	倫理学	人文科学	山口（裕）	後	総科
罪と悪－旧約聖書の世界－	倫理学	人文科学	吉田（昌）	後	総科
心理学概論	心理学	社会科学	内海	前・後	総科
自分探しの心理学	心理学	社会科学	香川	前・後	開放セ
学びの心理学	心理学	社会科学	川野	前	開放セ
心理学概説	心理学	社会科学	佐藤（健）	前・後	総科

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
心の科学	心理学	社会科学	佐野（勝）	前	総科
心とからだの健康	心理学	社会科学	佐野・寺嶋	前	総科
現代世界の生涯学習	心理学	社会科学	鈴木（尚）	後	開放セ
生体の統合機能	心理学	社会科学	勢井	後	医
心理学基礎	心理学	社会科学	境	前・後	総科
心理学入門	心理学	社会科学	濱田	前・後	総科
心理学初歩	心理学	社会科学	原	前・後	総科
自己分析の心理学	心理学	社会科学	山本（真）	前・後	総科
教育における生命と美	教育学	社会科学	弘田	前	総科
身体教育思想	教育学	社会科学	弘田	後	総科
学校の現象学：学校はいま？	教育学	社会科学	廣渡	後	開放セ
環境問題などと科学者・マスコミ ー各種の情報に惑わされない為の基礎知識ー	生物学	自然科学	小山（保）	前	総科
生物と環境	生物学	自然科学	佐藤（征）	後	総科
バイオテクノロジーと生命倫理	生物学	自然科学	辻（明）	後	工
生体のしくみ	生物学	自然科学	中川	前	総科
動物の生活の科学	生物学	自然科学	中鉢	後	総科
生命の科学	生物学	自然科学	林（弘）	後	総科
身の回りの微生物	生物学	自然科学	横井川	前	総科
細胞と遺伝子	生物学	自然科学	渡部	前	総科
ゼミナール「脳の構造・機能と脳の病気について」	自然科学ゼミナール	自然科学	荒木（勉）	後	薬
ゼミナール「薬物治療の最適化～その概念と方法～」	自然科学ゼミナール	自然科学	石田（竜）	後	薬
ゼミナール「微生物のはなし」	自然科学ゼミナール	自然科学	柴田	前	薬
ゼミナール「免疫学はおもしろい」	自然科学ゼミナール	自然科学	福井	後	薬
科学技術と人間	総合科目	総合	石田（三）	後	総科
生命・健康・病気（１）	学部開放科目	学部開放	泉（啓） 他	前	医
（医）放射線医学入門	学部開放科目	学部開放	上野（淳） 他	後	医保
（歯）口腔と健康	学部開放科目	学部開放	河野	前	歯
（医）小児看護学概論	学部開放科目	学部開放	谷	前	医保

生活と社会

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
経済と法	法律学	社会科学	泉（克）	前・後	総科
現代社会と法	法律学	社会科学	上原	前・後	総科
憲法と人権Ⅰ	法律学	社会科学	上地	前	非常勤
憲法と人権Ⅱ	法律学	社会科学	上地	後	非常勤
家族法の諸問題	法律学	社会科学	直井	前	総科
消費生活と財産法	法律学	社会科学	直井	前	総科
身のまわりの法律問題	法律学	社会科学	西川	後	総科
憲法と人権Ⅰ	法律学	社会科学	堀井	前	非常勤
憲法と人権Ⅱ	法律学	社会科学	堀井	後	非常勤
政治とメディア	政治学	社会科学	饗場	前	総科
国際政治学入門	政治学	社会科学	饗場	後	総科
市民と政治	政治学	社会科学	栗栖	前・後	総科

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
生活の中の社会学	社会学	社会科学	檜田	後	総科
移民から世界をみる	社会学	社会科学	樋口 (直)	前	総科
ボランティア実践	社会学	社会科学	樋口 (直)	後	総科
社会学のパスpekティブ	社会学	社会科学	矢部	前	総科
都市の人間関係	社会学	社会科学	矢部	後	総科
ワーキングプアと現代の貧困	社会学	社会科学	吉田 (浩)	後	総科
意味喪失と生きるための意味	社会学	社会科学	吉田 (浩)	前	総科
魔術からの解放の再魔術化	社会学	社会科学	吉田 (浩)	後	総科
財政学入門	経済学	社会科学	石田 (和之)	後	総科
財政制度入門	経済学	社会科学	永井	後	非常勤
地方行政経営論	経済学	社会科学	石田 (和之)	後	総科
ゼミナール「社会科学の夢」	経済学	社会科学	水島	前	総科
工業経済学	経済学	社会科学	立花	後	総科
マクロ経済学入門	経済学	社会科学	趙	後	総科
人口経済学入門	経済学	社会科学	趙	前	総科
食生活の経済学	経済学	社会科学	中嶋 (信)	前	総科
経済学入門	経済学	社会科学	眞弓	前	総科
社会科学のための統計学入門	経済学	社会科学	矢野 (剛)	前・後	総科
国際化のなかで地域問題を考える	地理学	社会科学	北村 (修)	前	総科
国際化と環境問題	地理学	社会科学	北村 (修)	後	総科
暮らしと地図	地理学	社会科学	田中 (耕)	後	総科
産業と交通	地理学	社会科学	田中 (耕)	前	総科
地球環境問題	地理学	社会科学	豊田	後	総科
ゼミナール「意思決定と情報」	社会科学ゼミナール	社会科学	多田	前	総科
ゼミナール「現代日本経済論」	社会科学ゼミナール	社会科学	立花	前	総科
中東経済入門(第二次大戦後の政治と経済)	社会科学ゼミナール	社会科学	水島	後	総科
ゼミナール「法学入門」	社会科学ゼミナール	社会科学	西川	前	総科
国際協力論－四国から世界へ 知って理解し動ける人に－	総合科目	総合	饗場	前	総科
ボランティア論	総合科目	総合	檜田 他	前	総科

自然と技術

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
ゼミナール「統計のためのプログラミング入門」	人文科学ゼミナール	人文科学	石田 (基)	前	総科
ゼミナール「文系のためのプログラミング入門」	人文科学ゼミナール	人文科学	石田 (基)	後	総科
数理の世界	数学	自然科学	村上 (公)	前	総科
数理科学の世界	数学	自然科学	桑原 (類)	後	総科
科学技術と物理学	物理学	自然科学	桑折	前・後	総科
宇宙物理学入門	物理学	自然科学	伏見	前	総科
身のまわりの物性科学	物理学	自然科学	小山 (晋)	前	総科
相対論入門	物理学	自然科学	中山 (信)	後	総科
現代物理学の世界	物理学	自然科学	日置	後	総科
原子核・素粒子物理学の最先端	物理学	自然科学	伏見	後	総科
環境科学入門～人間と地球の調和を目指して～	化学	自然科学	山本 (裕)	前	総科
化学と技術－生きている化学はおもしろい－	化学	自然科学	和田	前	総科

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
化学と社会	化学	自然科学	三好	前	総科
生活と化学のかかわり	化学	自然科学	菊池	後	総科
環境・食品安全と健康	化学	自然科学	関澤	後	総科
人間生活に役立つ天然有機化合物	化学	自然科学	武田 (美)	前	総科
ゲノムと発生のテクノロジー	生物学	自然科学	真壁	前	総科
遺伝と進化	生物学	自然科学	松尾	後	総科
日本の植物の多様性	生物学	自然科学	山城	後	総科
第四紀の自然環境	地学	自然科学	西山	前	総科
地球と地層の科学	地学	自然科学	村田 (明)	前	総科
地球の科学	地学	自然科学	石田 (啓)	前	総科
生物がつくる鉱物－生体鉱物－	地学	自然科学	沼子	前	総科
鉱物と材料	地学	自然科学	沼子	後	総科
防災のための地球科学	地学	自然科学	西山 (賢)	後	総科
地球の科学	地学	自然科学	石田 (啓)	後	総科
身の回りの地球科学	地学	自然科学	村田 (明)	後	総科
ゼミナール「活断層と地震」	自然科学ゼミナール	自然科学	村田 (明)	前	総科
ゼミナール「バイオテクノロジー入門」	自然科学ゼミナール	自然科学	辻 (大)	前	薬
ゼミナール「化学の目で見る生命現象」	自然科学ゼミナール	自然科学	重永	後	薬
ゼミナール「自然環境と分析科学」	自然科学ゼミナール	自然科学	竹内 (政)	後	薬
ゼミナール「理工学におけるパソコン入門」	自然科学ゼミナール	自然科学	桑折	後	総科
ゼミナール「セレンディピティと薬学」	自然科学ゼミナール	自然科学	宮本	後	薬
ゼミナール「自然科学の観察からレポートまで」	自然科学ゼミナール	自然科学	石田 (啓)	後	総科
(医) 医療情報処理学入門	学部開放科目	学部開放	近藤 (正)	前	医保
(医) 臨床検査学入門	学部開放科目	学部開放	西田 他	前	医保
(歯) 医療情報処理	学部開放科目	学部開放	河野	前	歯
地域の環境と防災	学部開放科目	学部開放	鎌田 (磨) 他	前	工
(工) 機械工学概論	学部開放科目	学部開放	機械工学科教授	前	工
(工) 化学応用工学概論	学部開放科目	学部開放	金崎, 川崎	前	工
(工) 化学応用工学概論	学部開放科目	学部開放	川城 他	後	工
(工) 電気電子工学概論	学部開放科目	学部開放	電気電子工学科教員	前	工
(工) 知能情報工学セミナー	学部開放科目	学部開放	青江 他	前	工
(工) 光の基礎	学部開放科目	学部開放	陶山	前	工
(歯) 歯学概論	学部開放科目	学部開放	歯学部教授	後	歯
(工) 生物工学概論	学部開放科目	学部開放	辻 (明) 他	後	工
災害を知る	総合科目	総合	中野 他	前	工
資源と環境のはなし	総合科目	総合	眞弓	前	総科
インタラクティブシステムデザイン	総合科目	総合	吉田 (敦)	前	総科
宗教と科学	総合科目	総合	大橋 (眞)	前	総科
神経の世界－動物の行動と精神活動－	総合科目	総合	大橋 (眞), 佐野	後	総科
災害に備える	総合科目	総合	中野 他	後	工
教養としての統計	総合科目	総合	川野	後	開放セ

ウェルネス総合演習

授 業 題 目	授 業 科 目 (旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	荒木 (秀)	前・後	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	小原	後	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	佐竹	前・後	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	佐藤 (充)	前・後	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	長積	前・後	総科
健康スポーツ演習		健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	長積	前	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	中村 (久)	前・後	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	的場	前・後	総科
ウェルネス総合演習	ウェルネス総合演習	健康スポーツ実習・健康スポーツ科目	三浦 (哉)	前・後	総科

共創型学習

授 業 題 目	授 業 科 目 (旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
「つたえること」と「ものづくり」～あいのメッセージ～	自然と技術	総合科目・総合	佐藤 (高), 渡部	前	総科
「つたえること」と「ものづくり」～あいのメッセージ～	自然と技術	総合科目・総合	大橋 (眞), 山城	前	総科
「つたえること」と「ものづくり」～科学と遊ぼう～	自然と技術	総合科目・総合	齋藤 (隆), 田村	前	総科
e ラーニングコンテンツの設計と制作	自然と技術	総合科目・総合	吉田 (敦)	前	総科
アクティブラーニング入門	自然と技術	総合科目・総合	齋藤 (隆)	後	総科
この良さをわかってほしい	自然と技術	総合科目・総合	佐藤 (征)	前	総科
宇宙を探る	自然と技術	総合科目・総合	伏見	前	総科
学生と地域社会人による授業企画ゼミ～大学でなにを学ぶのか？～	生活と社会	総合科目・総合	大橋 (眞) 他	前	総科
空海と歩く～歩き遍路の世界～	歴史と文化	総合科目・総合	田中 (俊)	後	開放セ
国際交流の扉を拓 (ひら) く	生活と社会	総合科目・総合	金 他	後	留学セ
身近にある「ゆったりもの」～方言～	歴史と文化	総合科目・総合	岸江	前	総科
人間行動の科学	人間と生命	総合科目・総合	荒木 (秀)	後	総科
地域のボランティアリーダーたちと語ろう！！Ⅰ	生活と社会	総合科目・総合	廣渡, 田村	前	開放セ
地域のボランティアリーダーたちと語ろう！！Ⅱ	生活と社会	総合科目・総合	廣渡, 田村	後	開放セ
地域社会に学ぶ日本の文化	歴史と文化	総合科目・総合	大橋 (眞), 田村	後	総科
埋もれた文化遺産Ⅰ	歴史と文化	総合科目・総合	中原, 中村	前	埋蔵文化
埋もれた文化遺産Ⅱ	歴史と文化	総合科目・総合	中原, 中村	後	埋蔵文化
名著講読			鈴木 (尚), 香川	前	開放セ
名著講読			菊池, 田村	前	総科
名著講読			依岡, 田村	前	総科
名著講読Ⅱ			依岡, 田村	後	総科
名著講読Ⅱ			香川, 鈴木 (尚)	後	開放セ
名著講読Ⅱ			菊池, 田村	後	総科

ヒューマンコミュニケーション

授 業 題 目	授 業 科 目 (旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
ソーシャルコミュニケーション			上野 (修) 他	前	医 保
ヒューマンコミュニケーション	人間と生命	総合科目・総合	佐野, 寺嶋 他	前	総科
ヒューマンコミュニケーション	人間と生命	総合科目・総合	寺嶋 他	前 後	医

英語

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
基盤英語	英語 (1)	英語	井上	前	総科
基盤英語	英語 (1)	英語	石田 (和枝)	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	石田 (メ)	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	上野 (加)	前	総科
基盤英語	英語 (1)	英語	魚崎	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	小野原	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	ギュンター	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	小瀬	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	坂田	前	留学セ
基盤英語	英語 (1)	英語	スタージ	前	総科
基盤英語	英語 (1)	英語	スティーヴンズ	前	総科
基盤英語	英語 (1)	英語	田中 (孝)	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	中島	前	総科
基盤英語	英語 (1)	英語	中西 (リ)	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	西山 (高)	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	樋口 (友)	前	総科
基盤英語	英語 (1)	英語	フクダ	前	共通セ
基盤英語	英語 (1)	英語	前田 (一)	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	マコーマック	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	マーシェソ	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	三浦 (博)	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	三宅	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	宮崎	前	総科
基盤英語	英語 (1)	英語	宮田	前	開放セ
基盤英語	英語 (1)	英語	森岡	前	総科
基盤英語	英語 (1)	英語	山内	前	総科
基盤英語	英語 (1)	英語	山田 (紀)	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	山田 (仁)	前	総科
基盤英語	英語 (1)	英語	吉田 (文)	前	総科
基盤英語	英語 (1)	英語	ラクストン	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	藪下	前	非常勤
基盤英語	英語 (1)	英語	米原	前	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	阿部	後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	石田 (和枝)	後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	石田 (メ)	後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	井上	後	総科
主題別英語	英語 (2)	英語	上野 (加)	前・後	総科
主題別英語	英語 (2)	英語	魚崎	前・後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	小野原	前・後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	ギュンター	後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	小瀬	後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	坂田	後	留学セ
主題別英語	英語 (2)	英語	スティーヴンズ	後	総科
主題別英語	英語 (2)	英語	田中 (孝)	後	非常勤

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
主題別英語	英語 (2)	英語	中島	後	総科
主題別英語	英語 (2)	英語	西山 (高)	後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	パトリック	後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	早内 (ブ)	後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	樋口 (友)	前・後	総科
主題別英語	英語 (2)	英語	フクダ	後	共通セ
主題別英語	英語 (2)	英語	フロスト	前	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	前田 (一)	後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	マコーマック	後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	三浦 (博)	後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	三宅	前・後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	宮田	前・後	開放セ
主題別英語	英語 (2)	英語	森岡	後	総科
主題別英語	英語 (2)	英語	山内	後	総科
主題別英語	英語 (2)	英語	山田 (仁)	後	総科
主題別英語	英語 (2)	英語	山田 (紀)	後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	山森	後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	宮崎	前・後	総科
主題別英語	英語 (2)	英語	藪下	後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	吉田 (文)	後	総科
主題別英語	英語 (2)	英語	米原	前・後	非常勤
主題別英語	英語 (2)	英語	ラクストン	後	非常勤
発信型英語	英語 (2)	英語	石田 (メ)	前・後	非常勤
発信型英語	英語 (2)	英語	魚崎	前	非常勤
発信型英語	英語 (2)	英語	ギュンター	前・後	非常勤
発信型英語	英語 (2)	英語	坂田	後	留学セ
発信型英語	英語 (2)	英語	スタージ	前・後	総科
発信型英語	英語 (2)	英語	スティーヴンズ	前・後	総科
発信型英語	英語 (2)	英語	中島	前	総科
発信型英語	英語 (2)	英語	中西 (リ)	前・後	非常勤
発信型英語	英語 (2)	英語	西山 (高)	前	非常勤
発信型英語	英語 (2)	英語	パトリック	前・後	非常勤
発信型英語	英語 (2)	英語	早内 (ブ)	前・後	非常勤
発信型英語	英語 (2)	英語	樋口 (友)	後	総科
発信型英語	英語 (2)	英語	フクダ	前・後	共通セ
発信型英語	英語 (2)	英語	フロスト	前・後	非常勤
発信型英語	英語 (2)	英語	マコーマック	前・後	非常勤
発信型英語	英語 (2)	英語	マーシェソ	前・後	非常勤
発信型英語	英語 (2)	英語	三浦 (博)	前・後	非常勤
発信型英語	英語 (2)	英語	宮田	後	開放セ
発信型英語	英語 (2)	英語	山森	前	非常勤
発信型英語	英語 (2)	英語	ラクストン	前・後	非常勤

ドイツ語

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	石川	前・後	総科
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	石田 (基)	前・後	総科
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	井戸	前・後	総科
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	今井 (晋)	前・後	総科
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	桂	前・後	総科
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	川上	前・後	総科
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	ギュンター	前・後	非常勤
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	曾田	前・後	開放セ
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	ヘルベルト	前・後	総科
ドイツ語入門	ドイツ語(1)	ドイツ語	依岡	前	総科
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	石川	後	総科
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	井戸	後	総科
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	今井 (晋)	前・後	総科
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	桂	後	総科
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	川上	後	総科
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	ギュンター	後	非常勤
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	ヘルベルト	後	総科
ドイツ語初級	ドイツ語(2)	ドイツ語	ヘルベルト	前・後	総科
ドイツ語初級	ドイツ語(1)	ドイツ語	依岡	後	総科
ドイツ語 (2)	ドイツ語(2)	ドイツ語	井戸	前・後	総科

フランス語

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
フランス語入門	フランス語(1)	フランス語	田島	前	総科
フランス語入門	フランス語(1)	フランス語	長井	前	総科
フランス語入門	フランス語(1)	フランス語	バルカン	前	非常勤
フランス語初級	フランス語(1)	フランス語	田島	後	総科
フランス語初級	フランス語(1)	フランス語	長井	後	総科
フランス語初級	フランス語(1)	フランス語	バルカン	後	非常勤

中国語

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
中国語入門	中国語(1)	中国語	荒武	前	総科
中国語入門	中国語(1)	中国語	喜多	前・後	非常勤
中国語入門	中国語(1)	中国語	施	前・後	非常勤
中国語入門	中国語(1)	中国語	邵	前	総科
中国語入門	中国語(1)	中国語	何	前・後	非常勤
中国語入門	中国語(1)	中国語	山木	前・後	非常勤
中国語初級	中国語(1)	中国語	荒武	前・後	総科
中国語初級	中国語(1)	中国語	施	後	非常勤
中国語初級	中国語(1)	中国語	邵	後	総科
中国語初級	中国語(1)	中国語	何	前・後	非常勤

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
中国語初級	中国語(1)	中国語	山木	後	非常勤
中国語 I	中国語(2)	中国語	邵	前・後	総科
中国語 II	中国語(2)	中国語	葭森	前・後	総科

情報科学

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
情報科学入門	情報科学	情報科学	宇野	前	総科
情報科学入門	情報科学	情報科学	大橋(守)	前	総科
情報科学入門	情報科学	情報科学	河原崎	後	総科
情報科学入門	情報科学	情報科学	掛井	前	総科
情報科学入門	情報科学	情報科学	金西	前・後	基盤七
情報科学入門	情報科学	情報科学	川田	前	工
情報科学入門	情報科学	情報科学	鈴木(雄)	前	非常勤
情報科学入門	情報科学	情報科学	中山(慎)	前・後	総科
情報科学入門	情報科学	情報科学	蓮沼	前・後	総科
情報科学入門	情報科学	情報科学	前田(茂)	前	総科
情報科学入門	情報科学	情報科学	松浦	前・後	基盤七
情報科学入門	情報科学	情報科学	村上(明)	前・後	非常勤

日本事情

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
日本事情 I	日本事情	日本事情	坂田	前	留学七
日本事情 II	日本事情	日本事情	坂田	後	留学七
日本事情 III	日本事情	日本事情	橋本	前	留学七
日本事情 IV	日本事情	日本事情	橋本	後	留学七

日本語

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
日本語 1	日本語(1)	日本語	石田(愛)	前	非常勤
日本語 2	日本語(1)	日本語	石田(愛)	後	非常勤
日本語 3	日本語(2)	日本語	橋本	前	留学七
日本語 4	日本語(2)	日本語	橋本	後	留学七
日本語 5	日本語(1)	日本語	大石	前	留学七
日本語 6	日本語(1)	日本語	大石	後	留学七
日本語 7	日本語(2)	日本語	橋本	前	留学七
日本語 8	日本語(2)	日本語	橋本	後	留学七

基礎科目群

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
医療情報処理	基礎数学	基礎教育科目	河野	前	歯
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	桑原 (類)	前	総科
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	村上 (公)	前	総科
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	大渕	前	総科
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	片山	前	総科
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	守安	前	総科
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	岡本 (邦)	前	工
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	大沼	前	総科
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	小野	前	総科
線形代数学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	蓮沼	前	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	桑原 (類)	後	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	村上 (公)	後	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	大渕	後	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	片山	後	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	守安	後	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	岡本 (邦)	後	工
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	大沼	後	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	小野	後	総科
線形代数学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	蓮沼	後	総科
統計学	基礎数学	基礎教育科目	大橋 (守)	前・後	総科
統計学	基礎数学	基礎教育科目	前田 (茂)	後	総科
統計学	基礎数学	基礎教育科目	守安	後	総科
微分積分学	基礎数学	基礎教育科目	前田 (茂)	前	総科
微分積分学	基礎数学	基礎教育科目	桑原 (類)	前	総科
微分積分学	基礎数学	基礎教育科目	大橋 (守)	前	総科
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	宇野	前	総科
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	竹内 (敏)	前	工
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	前田 (茂)	前	総科
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	高橋 (浩)	前	工
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	伊藤 (正)	前	総科
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	大橋 (守)	前	総科
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	片山	前	総科
微分積分学Ⅰ	基礎数学	基礎教育科目	長町	前	工
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	伊藤 (正)	後	総科
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	宇野	後	総科
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	大橋 (守)	後	総科
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	大渕	後	総科
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	片山	後	総科
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	竹内 (敏)	後	工
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	長町	後	工
微分積分学Ⅱ	基礎数学	基礎教育科目	前田 (茂)	後	総科
基礎物理学Ⅰ・物理学概論	基礎物理学	基礎教育科目	浦西	前	非常勤
基礎物理学Ⅱ・物理学概論	基礎物理学	基礎教育科目	浦西	後	非常勤
基礎物理学Ⅲ・力学	基礎物理学	基礎教育科目	川崎 (祐)	前	工

授 業 題 目	授業科目(旧)	分 野	担 当 教 員	学 期	所 属
基礎物理学 f・力学概論	基礎物理学	基礎教育科目	桑折	前	総科
基礎物理学 f・力学概論	基礎物理学	基礎教育科目	中山（信）	前	総科
基礎物理学 f・力学概論	基礎物理学	基礎教育科目	岸本	前	工
基礎物理学 f・力学概論	基礎物理学	基礎教育科目	菅原	前	総科
基礎物理学 f・力学概論	基礎物理学	基礎教育科目	中村（浩）	前	工
基礎物理学 f・力学概論	基礎物理学	基礎教育科目	日置	後	総科
基礎物理学 g・電磁気学概論	基礎物理学	基礎教育科目	岸本	後	工
基礎物理学 g・電磁気学概論	基礎物理学	基礎教育科目	日置	後	総科
基礎物理学実験 A	基礎物理学	基礎教育科目	桑折 他	後	総科
基礎物理学実験 B	基礎物理学	基礎教育科目	中山（信） 他	後	総科
力学及び熱力学	基礎物理学	基礎教育科目	日置	前	総科
化学の基礎	基礎化学	基礎教育科目	菊池	前	総科
基礎化学Ⅰ・生化学の基礎	基礎化学	基礎教育科目	佐々木	前	医
基礎化学Ⅰ・電子と有機化学	基礎化学	基礎教育科目	根本	前	薬
基礎化学Ⅰ・物理化学(化学平衡と反応速度論)	基礎化学	基礎教育科目	今井（昭）	後	総科
基礎化学Ⅰ・物理化学（平衡と反応速度）	基礎化学	基礎教育科目	村田（勝）	前	非常勤
基礎化学Ⅱ	基礎化学	基礎教育科目	伊藤（孝） 他	後	薬
基礎化学Ⅱ・原子と分子	基礎化学	基礎教育科目	植野	後	薬
基礎化学Ⅱ・有機化学(ライフサイエンスの基礎)	基礎化学	基礎教育科目	増田（晃）	前	非常勤
基礎化学ⅡA・有機化学(ライフサイエンスの基礎)	基礎化学	基礎教育科目	三好	後	総科
基礎化学ⅡB・有機化学(ライフサイエンスの基礎)	基礎化学	基礎教育科目	増田（俊）	前	総科
基礎化学Ⅲ・細胞生物化学の基礎	基礎化学	基礎教育科目	山崎	後	ゲノム
基礎化学 i・化学結合論	基礎化学	基礎教育科目	武田（清）	前	非常勤
基礎化学 i・化学結合論	基礎化学	基礎教育科目	寺尾	前	総科
基礎化学概論	基礎化学	基礎教育科目	村田（勝）	後	非常勤
基礎化学実験	基礎化学	基礎教育科目	今井（昭） 他	前	総科
基礎化学実験	基礎化学	基礎教育科目	薬学部教員	後	薬
基礎化学実験	基礎化学	基礎教育科目	武田（美） 他	後	総科
基礎化学実験	基礎化学	基礎教育科目	三好 他	後	総科
基礎生物学DⅠ	基礎生物学	基礎教育科目	北村（清） 他	前	歯
基礎生物学DⅡ	基礎生物学	基礎教育科目	細井 他	後	歯
基礎生物学H	基礎生物学	基礎教育科目	渡部	後	総科
基礎生物学MⅠ	基礎生物学	基礎教育科目	六反 他	前	医
基礎生物学MⅡ	基礎生物学	基礎教育科目	六反 他	後	医
基礎生物学N	基礎生物学	基礎教育科目	金丸	後	総科
基礎生物学P	基礎生物学	基礎教育科目	松尾	前	総科
基礎生物学T	基礎生物学	基礎教育科目	佐藤（高）	前	総科
基礎生物学実験 A	基礎生物学	基礎教育科目	山城 他	後	総科
基礎生物学実験 B	基礎生物学	基礎教育科目	山城 他	後	総科
基礎生物学実験 N	基礎生物学	基礎教育科目	山城 他	前	総科

V 徳島大学全学共通教育履修規則

V. 徳島大学全学共通教育履修規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、徳島大学学則（以下「学則」という。）第31条の規定に基づき、全学共通教育（以下「共通教育」という。）の授業科目、単位、履修方法、試験等に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業科目の区分)

第2条 共通教育として開設する授業科目の区分は、大学入門科目群、教養科目群、社会性形成科目群、基盤形成科目群及び基礎科目群とする。

(開設授業科目)

第3条 前条の各区分で開設する授業科目は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 大学入門科目群

大学入門講座、高大接続科目

(2) 教養科目群

歴史と文化、人間と生命、生活と社会、自然と技術

(3) 社会性形成科目群

ウェルネス総合演習、共創型学習、ヒューマンコミュニケーション

(4) 基盤形成科目群

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、情報科学

(5) 基礎科目群

基礎数学、基礎物理学、基礎物理学実験、基礎化学、基礎化学実験、基礎生物学、基礎生物学実験

2 前項に規定するもののほか、外国人留学生に対しては、教養科目群に日本事情を、基盤形成科目群に日本語を置く。

3 授業科目に授業題目を設ける。

4 授業題目、授業概要等の授業計画等については、別に定める。

(単位の基準等)

第4条 前条の授業科目の単位数は、次の各号に定めるところにより計算する。

(1) 講義は、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習及び実験は、30時間の授業をもって1単位とする。

(履修要件)

第5条 共通教育として履修する授業科目、単位数等の履修要件は、徳島大学全学共通教育センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）における協議・調整を経て、各学部において定めるものとする。

(外国人留学生の履修の特例)

第6条 外国人留学生が、日本事情の単位を修得したときは、教科科目群の歴史と文化、人間と生命、生活と社会又は自然と技術の単位に、日本語の単位を修得したときは、基盤形成科目群の英語、ドイツ語、フランス語又は中国語の単位にそれぞれ充てることができる。

(履修手続)

第7条 学生は、学期の初めに第3条第4項に規定する授業計画から履修しようとする授業科目又は授業題目を選択して、別に定めるところにより履修の届出をしなければならない。

（授業科目の成績評価及び単位の認定）

第8条 授業科目の成績の評価は、試験、学習報告、学習状況等によって担当教員が行うものとし、合格者に対しては、学生が所属する学部の教授会の議を経て、当該学部長が単位を認定する。

（試 験）

第9条 試験は、原則として学期末に行う。ただし、演習及び実験については、試験を行わないことがある。

2 試験を受けるには、授業時間数の3分の2以上出席していなければならない。

（成 績）

第10条 成績は、100点をもって満点とし、60点以上をもって合格とする。

2 成績は、優（80点以上）、良（70点以上）及び可（60点以上）に区分する。

（追試験及び再試験）

第11条 病気その他やむを得ない事情のため、定められた期日に受験できなかった者は、願い出により、追試験を受けることができる。

2 試験を受けて合格しなかった者に対しては、再試験を行うことがある。

（既修得単位等の認定）

第12条 学則第21条の4、第22条、第22条の2及び第22条の3の規定により、編入学、補欠入学、転学部及び転学科を許可された者の共通教育に関する既修得単位の認定は、運営委員会の予備審査に基づき、各学部教授会の議を経て、各学部長が行う。

2 学則第34条の4の規定による入学前の既修得単位等の認定は、前項の規定を準用する。

（留学及び他の大学又は短期大学において修得した単位の認定）

第13条 学則第27条の2の規定により外国の大学又は短期大学に留学を許可された者及び第34条の2の規定により他の大学又は短期大学の授業科目の履修を許可された者の当該大学又は短期大学において修得した共通教育に関する単位の認定は、前条第1項の規定を準用する。

2 学則第34条の3の規定による大学以外の教育施設等における学修の共通教育に関する単位の認定は、前条第1項の規定を準用する。

（雑 則）

第14条 この規則に定めるもののほか、共通教育の実施に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成8年5月17日から施行する。

附 則

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成11年7月23日から施行する。

附 則

この規則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 各学部において、この規則による改正後の徳島大学全学共通教育履修規則の規定によりがたい事情がある場合には、徳島大学全学共通教育センター運営委員会における協議・調整を経て、なお従前の例により履修要件を定めることができる。

附 則

この規則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

VI 全学共通教育に関わる学生生活

1. 学生窓口と取扱時間	83
1. 1. 全学共通教育履修学生の窓口事務	83
1. 2. 2年次生（後期）以降の窓口事務	83
1. 3. 取 扱 時 間	83
2. 学生への連絡方法（掲示）	83
3. 学 生 証	84
4. 各種証明書の発行	85
5. 講義室の使用	86
6. 授 業 料	86
7. 授 業 料 免 除	87
8. 奨 学 金	87
9. 健 康 管 理 関 係	87
10. 課外活動その他学生生活に関すること	87
11. 交通事故の防止	87
12. そ の 他	87
12. 1. 学生の呼び出し等について	87
12. 2. 郵便物について	88
12. 3. 喫煙について	88
12. 4. 遺失物及び拾得物について	88
12. 5. 交通事故・盗難について	88
12. 6. 携帯電話等の使用について	88
12. 7. エレベーターの使用について	88
12. 8. そ の 他	88

VI. 全学共通教育に関わる学生生活

1. 学生窓口と取扱時間

1. 1. 全学共通教育履修学生の窓口事務

学務課教育支援係（共通教育4号館1階）では、主として1年次生から2年次生（前期）までの全学共通教育履修学生の窓口として、次の事務を取り扱っています。本履修の手引90ページ記載の配置図で位置を確認しておいてください。

- 全学共通教育の教育課程に関すること。
- 全学共通教育の授業及び試験に関すること。
- 全学共通教育の成績に関すること。
- 全学共通教育に係る講義室の管理に関すること。
- 各種証明書の発行に関すること。
- その他全学共通教育に関すること。

1. 2. 2年次生（後期）以降の窓口事務

2年次生後期からの窓口事務は、所属学部・学部の学務係が担当します。所属学部の履修の手引等で位置を確認しておいてください。ただし、全学共通教育を引き続き履修する者に係る履修手続き等は、学務課教育支援係が担当します。

2年次生（後期）以降の窓口事務

所属学部・学科	担 当 係	地 区
総合科学部	学務係	常三島地区
医学部 医学科	第一教務係	蔵本地区
栄養学科	"	蔵本地区
保健学科	第四教務係	蔵本地区
歯学部	第二教務係	蔵本地区
薬学部	第三教務係	蔵本地区
工学部	学務係	常三島地区

1. 3. 取 扱 時 間

業務の取扱時間は、土・日・祝祭日を除き次のとおりです。

昼間コース学生： 8:30～12:00 13:00～17:30

夜間主コース学生： 上記のほか 17:00～21:30

2. 学生への連絡方法（掲示）

大学が、全学共通教育履修学生に対して行う一切の連絡・通知・告示等は、原則としてすべて学生掲示板（共通教育4号館1階のエレベーター横）に掲示することにより連絡します。

掲示板には、「全学共通教育履修に関する事項」のほか、「授業時間割や教室変更」「休講通知」「試験や補講の実施及び成績交付」「追試・再試の実施」「奨学金の申請・許可」「授業料の納付」「授業料免除の申請・許可」「健康診断の実施」「学生呼出」など学生生活に関わるすべてのことが掲示されます。

したがって、全学共通教育掲示板は
毎日必ず見るよう心掛けてください。

3. 学 生 証

学生の身分を証明するもので、学期末試験の受験、成績表や各種証明書の受領など、すべてに必要な
ので常に携帯してください。

万一紛失又は汚損したときは、直ちに学務課に行き、再発行の手続き（学生証汚損紛失届に記入押印の
上、写真（縦 4cm × 横 3cm）を添え提出）をしてください。

なお、学生証に記載されている内容は次のとおりです。

1 0	0 8	0 2	0 0 1	4
学部コード	入学年度	学科コード	一連番号	チェックディジット
総合科学部 1 0		人間社会学科	0 2	
		自然システム学科	0 3	
医学部 2 0		医学科	0 1	
		栄養学科	0 2	
		保健学科		
		看護学専攻	0 3	
		放射線技術科学専攻	0 4	
		検査技術科学専攻	0 5	
歯学部 3 0		歯学科	0 1	
		口腔保健学科	0 2	
薬学部 4 0		薬学科・創製薬科学科	0 3	
工学部 5 0		もの作り創造システム工学系		[夜間主コース]
		建設工学科	0 1	もの作り創造システム工学系 2 1
		機械工学科	0 2	機械工学科 2 2
		物質生命工学系		物質生命工学系
		化学応用工学科	0 3	化学応用工学科 2 3
		生物工学科	0 4	生物工学科 2 4
		コンピュータ工学系		コンピュータ工学系
		電気電子工学科	0 5	電気電子工学科 2 5
		知能情報工学科	0 6	知能情報工学科 2 6
		光応用工学科	0 7	

4. 各種証明書の発行

4. 1. 発行機で交付される証明書

「学割旅客運賃割引証（学割証）」、「在学証明書」、「成績証明書」、「卒業見込証明書」は、『学割・証明書発行機』により交付されます。

学生証を使って、操作手順に従って、自分で出力してください。

※学割・証明書発行機の設置場所

常三島地区：共通教育 4 号館 1 階、工学部共通講義棟 1 階

蔵 本 地 区：医学部基礎学実験棟（第一教務係） 1 階

(1) 学割旅客運賃割引証（学割証）

学割証は、割り当て枚数の範囲内で学生個人の自由な権利として使用することを前提としたものでなく、修学上の経済的負担の軽減と、学校教育の振興に寄与することを目的として設けられた制度で、原則として次の目的をもって鉄道旅行する場合に限り、年間 10 枚を限度として発行されます。ただし、J R の片道営業キロが 101 キロ以上の旅行でなければ利用できません。

【使用目的】

- ① 休暇等による帰省
- ② 正課の教育活動（実習など）
- ③ 課外活動
- ④ 就職又は進学のための受験等
- ⑤ 学校が認めた見学又は行事への参加
- ⑥ 傷病の治療等
- ⑦ 保護者との旅行

【使用上の注意】

- ・ 学割証は、他人に譲渡してはならない。
- ・ 有効期限は、発行日から 3 カ月以内であるので、有効期間を厳守すること。
- ・ 使用に際しては必ず学生証を携帯することとし、申請目的以外の目的で使用しないこと。
- ・ 学割証の不正使用に対しては、J R から、本人はもちろんのこと全学生に対する学割証発行停止等の措置を取られることがあるので、絶対に慎むこと。

(2) 在学証明書

学生本人が本学に在学していることを証明するものです。

(3) 成績証明書

学生本人の学業成績を証明するものです。

(4) 卒業見込証明書

学生本人の卒業見込を証明するものです。

4. 2. 窓口で交付される証明書

通学証明書は、学務課教育支援係（共通教育 4 号館 1 階）窓口で交付されます。

通学証明書は、通学のため定期券を購入するために発行するものです。通学定期券使用に際しては、必ず学生証を携帯してください。また、通学以外のアルバイト等には使用できません。

【申 請】学務課教育支援係に備えてある「通学証明書交付願」に必要事項を記入の上、申し込んでください。

【交 付】申請日の次の日から 3 日後（土曜・日曜・祝祭日は除く。）に学務課教育支援係で発行されるので、受け取ってください。

5. 講義室の使用

共通教育4号館の一部講義室は、授業及び大学の行事等に差し支えない場合で、全学共通教育履修学生が課外活動等で20名以上の会議等を行う場合に限り、使用することができます。希望する場合は、次により申請してください。

【申請】学務課教育支援係で空き講義室を確認の上、使用日の1週間前（土・日及び祝祭日は除く。）までに次により学務課教育支援係に願い出てください。

- 公認の学生団体又は大学祭実行委員会等（学生委員会で承認されたもの）が講義室を使用する場合は、所定の「講義室使用許可願」に必要事項を記入の上、助言指導教員又は学務課学生支援係の認印を得るとともに「所定の集会者名簿」を添え、学務課教育支援係へ願い出てください。
- クラス単位で講義室を使用する場合は、所定の「講義室使用許可願」に必要事項を記入の上、所属学部の補導教員又は学務（教務）係長の認印を得るとともに「所定の集会者名簿」を添え学務課教育支援係へ願い出てください。

【許可】使用を許可したときは、使用許可証を交付します。講義室の使用時間は特に許可された場合を除き、18時から20時までとし、使用に当たっては次のことに留意してください。

【使用上の注意】

- ① 使用後は、整理・整頓に留意し、戸締まりや後片付けをすること。
- ② 火気の使用及び喫煙は禁止する。
- ③ 借りた物品は、その日のうちに速やかに学務課教育支援係へ返却（21時以降は翌日）すること。

6. 授 業 料

授業料は、前期分（4月～9月）と後期分（10月～3月）に区分し、次の期間に納付してください。ただし、前期・後期分を併せて納付することも可能です。

6. 1. 納 付 期 間

- 前期分授業料 4月1日から4月30日まで（新入生にあっては、入学許可日から4月30日まで）
- 後期分授業料 10月1日から10月31日まで

注 授業料の納付を怠ったときは、除籍の対象となりますので期限内に必ず納付してください。

6. 2. 納 付 方 法

- 1年次生の前期分授業料は常三島会計事務センター（工学部共通講義棟1F）へ持参してください。
- 1年次生の後期からの授業料は代行納付方式により納付することとなります。

注 代行納付とは、学生又は保証人名義の預金口座からの自動引落とし（一定期日）により、銀行が学生に代わって授業料を大学に納付する方法です。

6. 3. 納 付 場 所

- 1年次生は、常三島会計事務センター（工学部共通講義棟1F）
- 2年次生からは、総合科学部、工学部学生は常三島会計事務センター、医学部、歯学部、薬学部学生は蔵本会計事務センター（医学部基礎学実験研究棟1F）

7. 授業料免除

経済的な理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者に対しては、授業料の全額又は半額を免除する制度があります。詳しくは「学生生活の手引」を参照してください。

8. 奨学金

日本学生支援機構奨学金、地方公共団体及び民間奨学金に関することは、「学生生活の手引」を参照してください。

9. 健康管理関係

定期健康診断の実施や保健管理センターの利用及び学生教育研究災害傷害保険に関することは「学生生活の手引」を参照してください。

10. 課外活動その他学生生活に関すること

これらに関することは、「学生生活の手引」を参照してください。

11. 交通事故の防止

最近、交通事故が社会的に大きな問題となっていますが、本学学生の中にも、その当事者となり、身体的、精神的な打撃を受けて、勉学に支障を来している人もおります。また、学内においても、自動車、オートバイ及び自転車の無秩序な駐車等が原因の事故、並びに市道への飛び出しによる出会い頭の衝突事故が多発しており、その対策として、下記により学内の交通を規制しています。お互いに迷惑を掛けないう、自主的で規律のある行動を期待しています。

- 自動車及びオートバイのキャンパス内への乗り入れ・走行は禁止します。
- 総合科学部第一駐車場の使用は、許可車（夜間主コース学生のみ）に限ります。
- オートバイ及び自転車は、必ず指定された場所へ置いてください。
- 総合科学部と工学部の間の市道を走行するときには、特に次の点に注意してください。
 - ・市道での自動車・オートバイ走行は、制限速度を遵守するとともに、正門等からの自転車や学生の飛び出しにも十分注意してください。
 - ・市道での自転車走行や歩行は車等に注意し、道路端を一行に走行・歩行してください。
 - ・オートバイあるいは自転車の駐輪場への出入りの際は、必ず一時停止をして、十分に安全確認をしてください。
 - ・市道への駐車は交通の妨害となり、危険なので絶対にしないでください。

12. その他

12. 1. 学生の呼び出し等について

電話による学生の呼び出しや住所・電話番号の照会には応じることはできませんので、保護者や知人に十分周知しておいてください。

12. 2. 郵便物について

学生個人あての郵便物等は、原則として取り扱いできません。

12. 3. 喫煙について

構内の喫煙については、指定場所以外の喫煙は禁止します。もちろん、講義室、廊下その他の場所においての歩きながらの喫煙も禁止します。なお、喫煙した場合はすいがらを灰皿にすてること。

12. 4. 遺失物及び拾得物について

共通教育棟における、遺失物及び拾得物は学務課教育支援係に、速やかに届けてください。

12. 5. 交通事故・盗難について

共通教育棟における交通事故、盗難被害は、学務課（共通教育4号館1階）に速やかに届け出てください。特に、体育館、総合運動場での盗難には十分注意しておいてください。

12. 6. 携帯電話等の使用について

携帯電話等のスイッチは、授業中は切っておいてください。

12. 7. エレベーターの使用について

身体に障害を有する学生のため、共通教育4号館1階にエレベーターを設置してあります。ケガや病気等やむを得ない場合を除き、一般学生の使用はご遠慮ください。

12. 8. そ の 他

大声でしゃべったり、大きな音を立てるなど、他の人に迷惑となる行為は慎んでください。

VII 常三島キャンパス

総合科学部建物配置図（共通教育棟を含む）	90
工学部建物配置図	91
共通教育 4 号館	92
共通教育 5 号館	93
共通教育 6 号館	94
総合科学部 3 号館	95
総合科学部 1 号館	97
総合科学部 2 号館	100
工学部共通講義棟（K 棟）	101

総合科学部建物配置図（共通教育棟を含む）



工学部建物配置図



共通教育 4 号館 (旧共通教育 B 館)

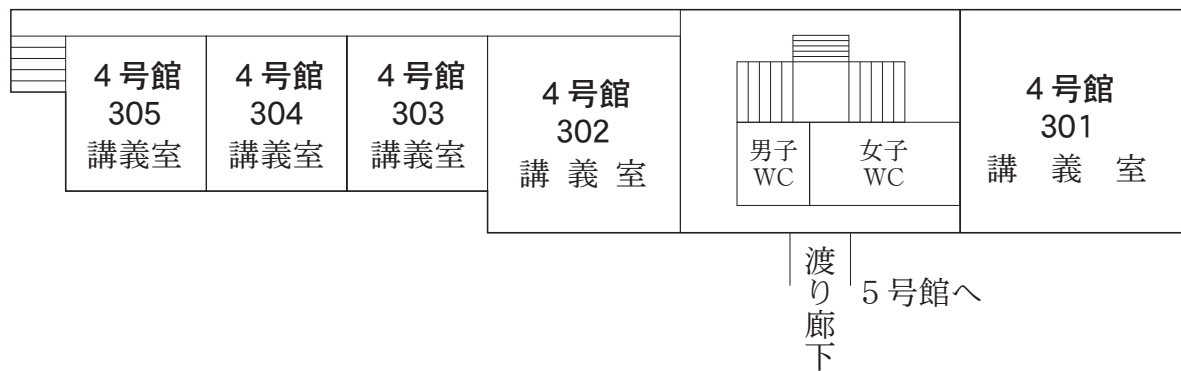
全学共通教育講義室と全学共通教育の窓口，就職支援室，学生相談室などがあります。



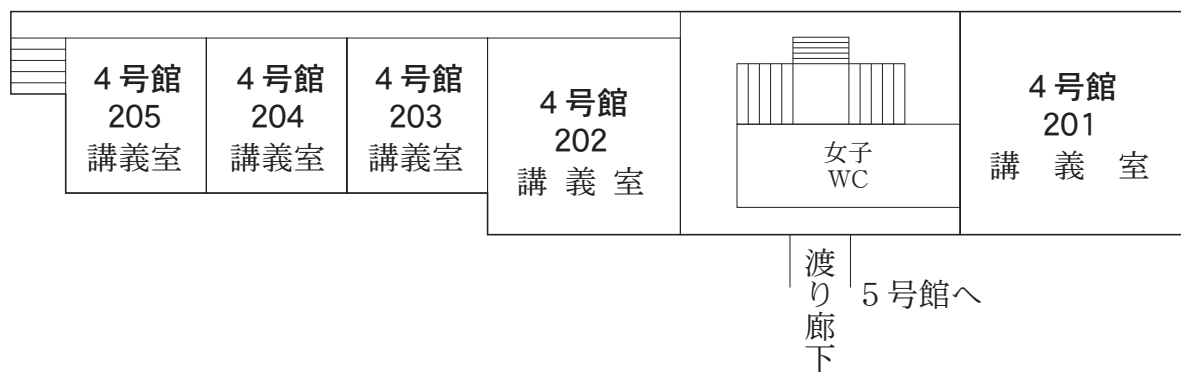
〔4 階〕



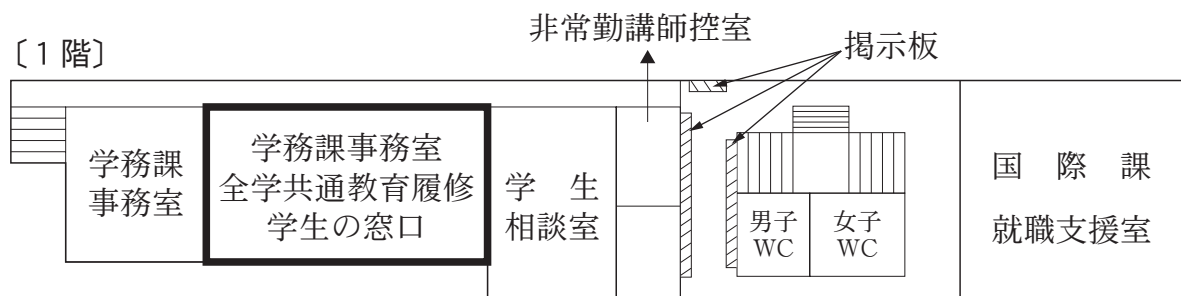
〔3 階〕



〔2 階〕



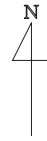
〔1 階〕



共通教育 5 号館 (旧共通教育 C 館)

全学共通教育講義室と保健管理センターがあります。

〔 4 階 〕



4 号館へ
渡り廊下

〔 3 階 〕



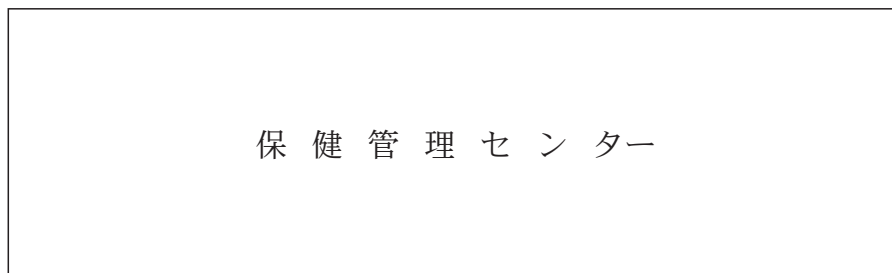
4 号館へ
渡り廊下

〔 2 階 〕



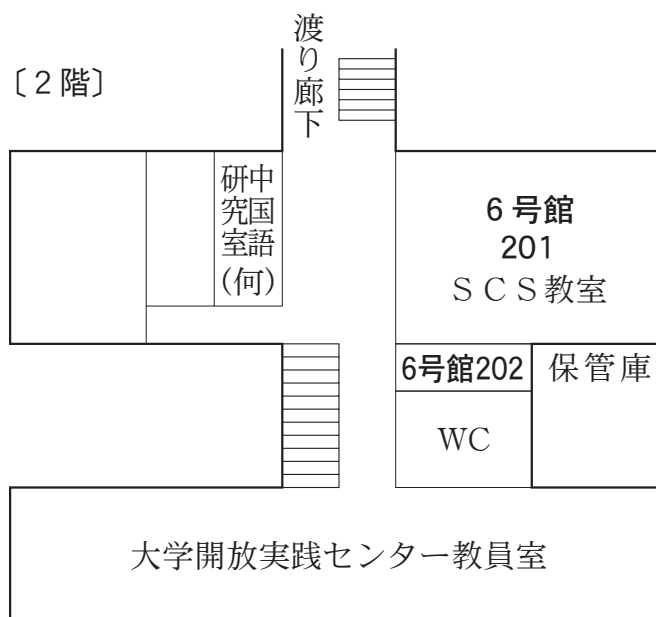
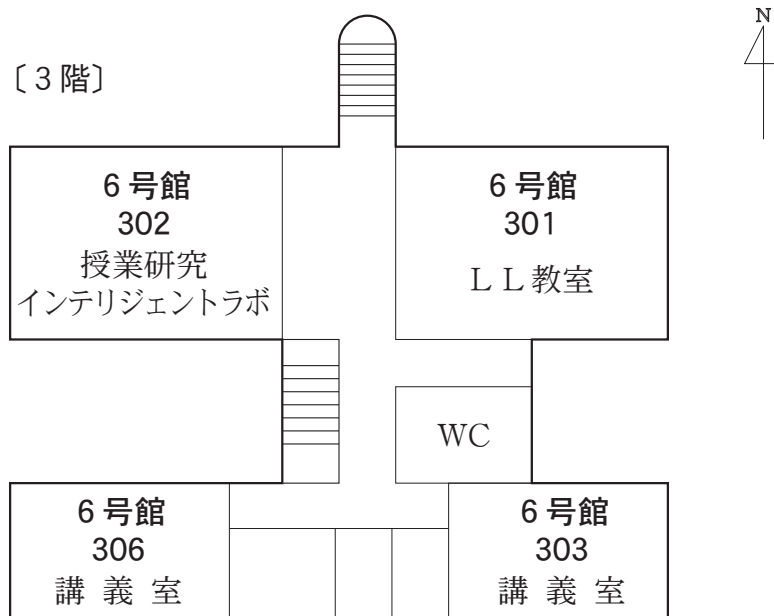
6 号館へ
渡り廊下

〔 1 階 〕



共通教育 6 号館 (旧共通教育D館)

全学共通教育講義室と大学開放実践センター教員室があります。

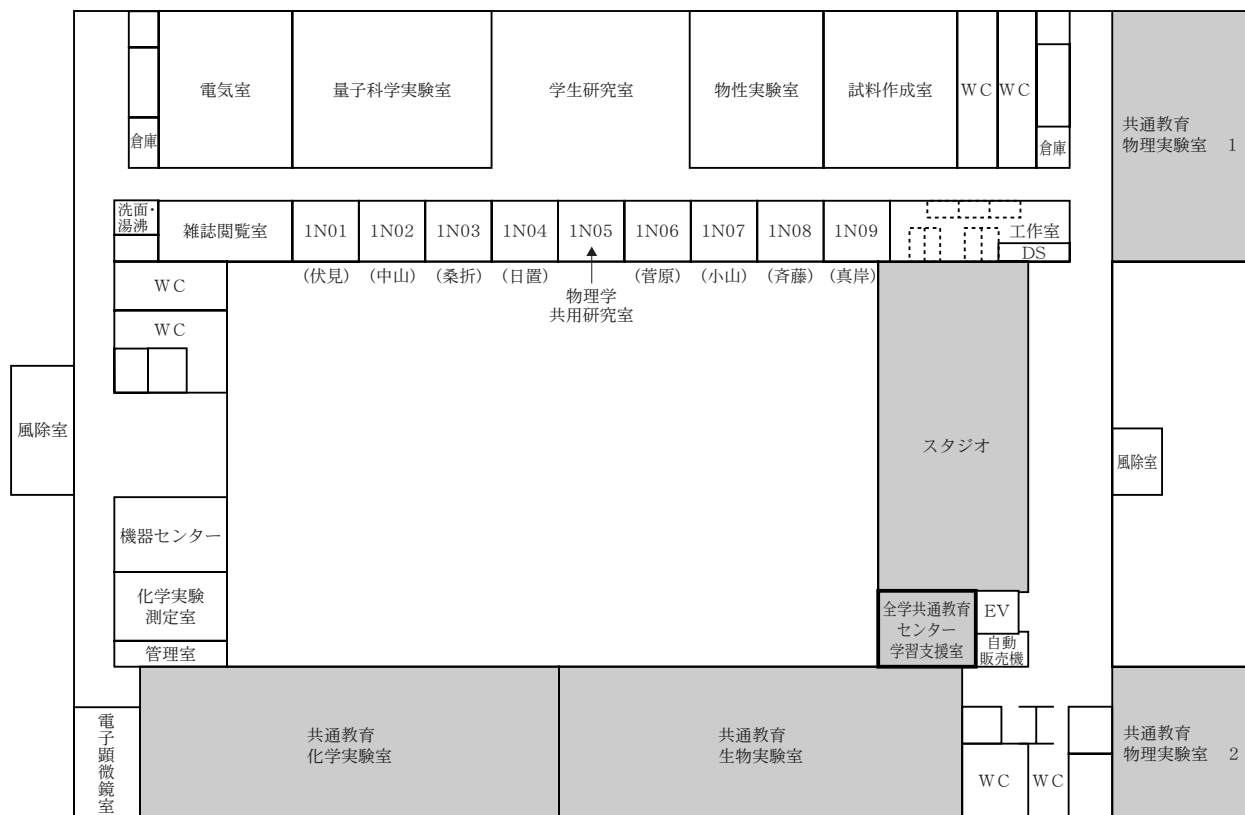


総合科学部 3 号 館

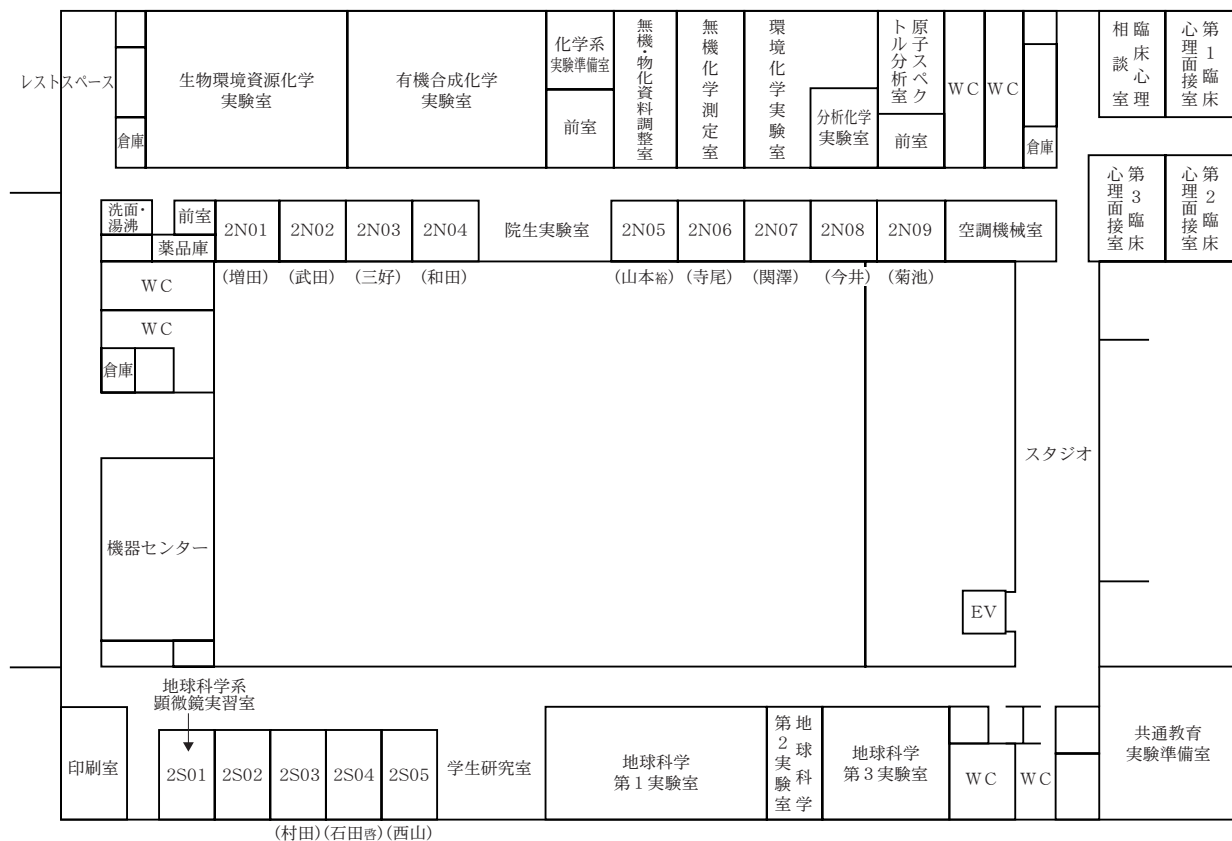
全学共通教育実験室、学習支援室などがあります。

〔 1 階 〕

総合科学部の全学共通教育担当教員研究室があります。

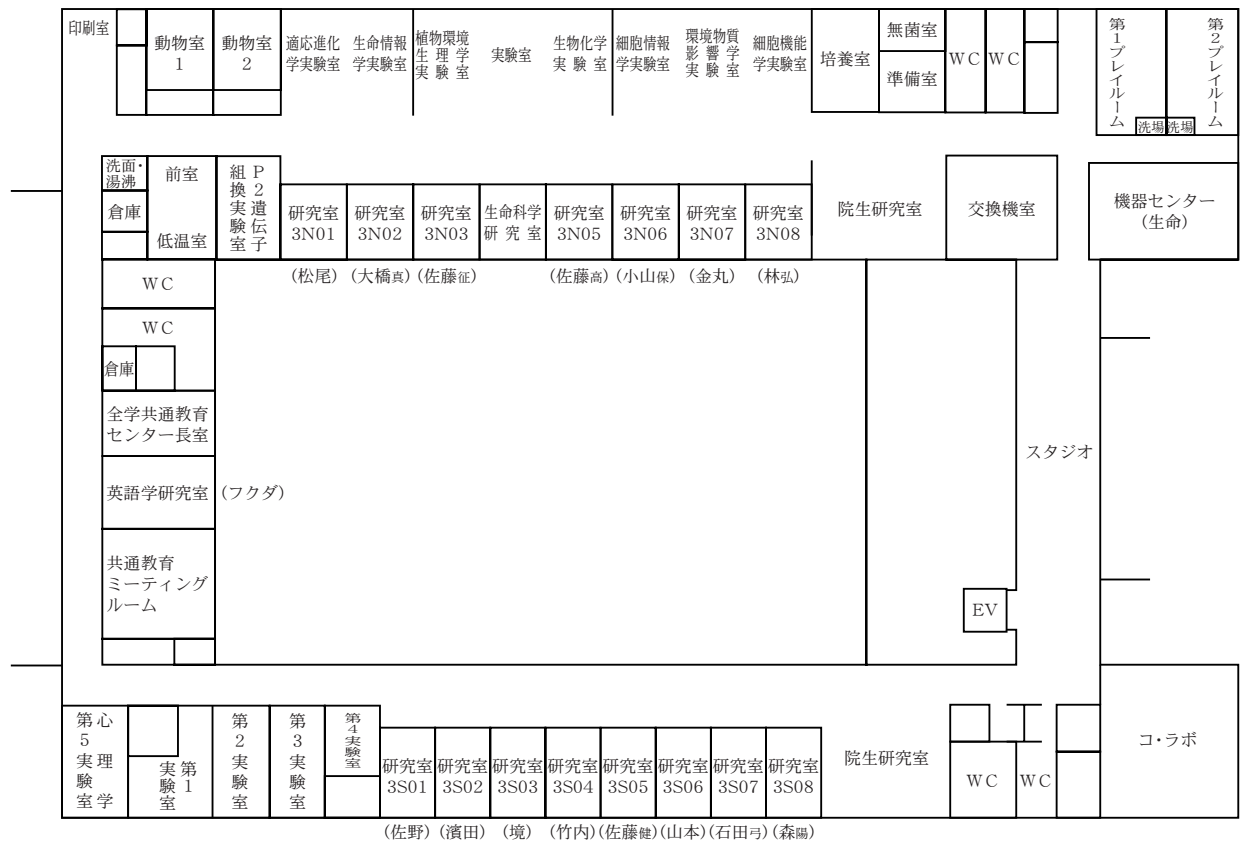


〔 2 階 〕



総合科学部 3 号 館

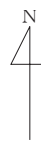
〔 3 階 〕



総合科学部 1 号 館

総合科学部の全学共通教育担当教員研究室があります。

〔 1 階 〕



徳島大学 教職員労働組合 事務所		A 留学生セン ター 教 室	留学生セン ター 教員控室	留学生セン ター 教材・相談 室	運動ウエル ネス 研究処方ネ ス 室論	ウエルネス 健康運動学第1実験室		実 習 養 護 教 育 室	実 験 ウエルネス 人体機能学 室	ウエルネス 動物飼育室	ウエルネス 運動生理学第1実験室	
										前 室		
 ゼミナール室① 研究 フランス文明論 室 研究 フランス学 室 研究 スポーツウエルネス 室 研究 ウエルネス 健康教育 室 研究 バイオメカニクス 室 研究 運動ウエルネス 室 研究 運動ウエルネス 第1研究室 室 研究 ウエルネス 応用 室  前 室 研究 ウエルネス 社会学 室 ウエルネス 健康運動学 第2実験室												
考古学実験 実習準備室 (長井) (田島) (長積) (中安) (佐竹) (中村久) (的場) (三浦哉) (佐藤充) 考 古 学 実 習 室 (石川) ドイツ文学 研 究 室 非常勤講師 室 ゼミナール室② (川上) (荒木)												
 守 衛 室 ゼミナール室③ ゼミナール室④ 自 大 学 習 室 基礎生物 実験室 基礎生物 実験室 研究 ドイツ 言語学 室 欧米言語 コース 欧米言語図書・資料・ 情報演習室  WC 研究 ウエルネス 室 実験ウエルネス 室												
WC ゼミナール室⑤ 研究 英語 室 研究 英語 室 研究 地理 室 ゼミナール室⑥ ゼミナール室⑦ 研究 生命科学 室 ゼミナール室⑧ 研究 英語 室 研究 人間 形成 室  経済社会 第3図書・資料室 処言ア 語理情 報研究 室 ア ジ ア 研 究 アジア関係図書・ 資 料 室												
WC (中島) (山田) (平井) (中鉢) (吉田文) (山下) 総 務 係 事 務 長 室 学 部 長 室 (奥津) (井戸)												
 WC 現代 事務 室 用 務 員 室 印 刷 室 更 衣 室 渭 水 会 室 研究 ドイツ 言語学 室 ゼミナール室⑨ 数理学 院 生 控 室  WC 倉 庫 倉 庫												
ホール 総 務 係 ・ 学 務 係 倉 庫 学 務 係 作 業 室 第3会議室 教務相談室 G I S 共同利用室 実 情 報 第 2 室 数理学 院 生 控 室 講 数 理 科 学 研 究 室 情 報 数 理 科 学 研 究 室 学部学生支援室												

総合科学部 1 号 館

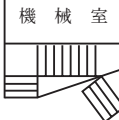
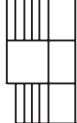
〔 2 階 〕

(渡部)

実験 生物 活性 室性	消毒 ----- 無菌室	実 験 分子 生命 生物 科学 室	精密測定室 ----- 低温室 暗室		実 験 植物 生態 室学	実 験 環 境 分子 生命 生物 科学 室学	研 究 生命 科学 室	研 究 分子 生物 科学 室	生命科学 実 験 実 験 室		資 料 文 化 室					
W C 国 際 文 化 図 書 資 料 室 研 究 国 際 政 治 学 室 民 法 研 究 室 分 析 測 定 室 研 究 生 学 室 研 究 分 子 生 体 環 境 学 室 研 究 活 性 物 質 生 理 学 室 研 究 系 統 分 類 学 室 生 命 科 学 デ ー タ 整 理 室 国 際 文 化 資 料 室 国 際 文 化 資 料 室 国 際 文 化 図 書 ・ 資 料 室																
(饗場) (直井) ((教)酒井) (真壁) (横井川) (中川) (山城)																
無機固体物質 分 析 研 究 室 (沼子)																
ゼミナール室⑩																
図 書 ・ 資 料 室 国 際 文 化 コー ス																
(水島) (多田) (石田和) (栗栖) (立花)																
電 気 室 	研 究 経 済 社 会 ③	研 究 国 際 経 済 学 室	研 究 マ ー ケ ー ティ ン グ 論 室	資 料 法 律 経 済 社 会 学 室	研 究 財 政 学 室	研 究 政 治 学 室	研 究 経 済 学 室	第 2 運 動 生 理 学 実 験 室	ウ エ ル ネ ル ス	第 2 運 動 生 理 学 実 験 室	ウ エ ル ネ ル ス	W C 	図 書 資 料 経 済 社 会 学 室	電 話 交 換 機 室		
W C	研 究 経 済 学 室	研 究 経 済 学 室	研 究 経 済 学 室	資 料 法 律 経 済 学 室	研 究 日 本 経 済 史 学 室	研 究 商 法 学 室	経 済 社 会 図 書 資 料 室	研 究 産 業 経 済 学 室	ウ エ ル ネ ル ス 実 験 実 習 室	統 計 経 済 社 会 学 室	図 書 閱 覧 経 済 学 室	蓄 電 池 室 考 古 学 倉 庫	教 育 推 進 教 員 研 究 室 国 語 室			
(趙) (中嶋) (西川) (矢野) ((教) 追谷) (ヘルベルト)																
第2会議室																
情報実習室																
((教)宮武) (村上) (伊藤利) (中山慎) (大淵) (樋口) (福島) (蓮沼)																
	W C	第 2 数 理 科 学 図 書 室	第 1 数 理 科 学 図 書 室	教 員 数 理 科 学 研 究 室	教 員 数 理 科 学 研 究 室	教 員 数 理 科 学 研 究 室	教 員 数 理 科 学 研 究 室	研 究 社 会 地 域 学 室	数 理 科 学 資 料 室	教 員 数 理 科 学 研 究 室	MX 室	W C 	実 習 数 理 科 学 室	サ ー バ 室	地 域 交 流 支 援 室 研 究 推 進 室	
教 員 数 理 科 学 研 究 室	教 員 数 理 科 学 研 究 室	図 書 閱 覧 数 理 科 学 室	教 員 数 理 科 学 研 究 室	教 員 数 理 科 学 研 究 室	教 員 数 理 科 学 研 究 室	教 員 数 理 科 学 研 究 室	教 員 数 理 科 学 研 究 室	研 究 社 会 地 域 学 室	研 究 数 理 科 学 室	哲 学 思 想 理 論 研 究 室 学 室	研 究 数 理 科 学 室	研 究 地 域 社 会 学 室	図 書 資 料 社 会 学 室	哲 学 ・ 思 想 研 究 室	実 習 数 理 ・ 情 報 室	研 究 室 科 学 論 ・ 科 学 史
(前田茂) (石原) (伊藤正) (大橋守) (守安) (桑原順) (樫田) (小野) (吉田浩) (大沼) (矢部) (吉田昌) (山口)																

総合科学部 1 号 館

〔 3 階 〕

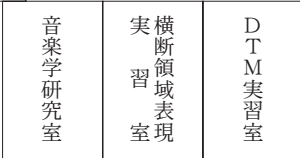
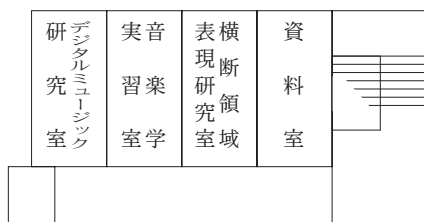
(山内) (宮崎) (野村) (元木)																	
306 講 義 室	305 講 義 室		日本関係図書 資 料 室		302 講 義 室		研 英 究 文 室 学	研 英 究 文 室 学	研臨ウ 床エ 究医 ル科 室学	研 英 究 語 室 学	301 講 義 室						
 W C	実系統 験分類 室学	生命 科学 学	研 中 究 文 学 学	304 講 義 室		303 講 義 室		研 行 究 政 室 法	研 経 究 済 室 法	教教外 員育 研推 究進 室室 語				 W C			
(有馬)														(上原) (泉) (スティーブス)			
第 1 会 議 室																	
英語英文学 研 究 室	(瀬尾鮎)																
(井上) (スタージ) (鮫藤川, 大谷)														(西出) (岸江) (桂) (石田基) (葭森)		(荒武)	
 機 械 室	研 英 究 語 室 学	教教外 員育 研推 究進 室室 語	講 人 文 科 座 学	図 講 書 文 資 料 科 室 座 学	研 西 究 洋 室 史	研 国 究 語 室 学	研 ド イ ツ 語 究 室 学・	研 言 ド イ ツ 語 究 室 学	研 ア ジ ア 究 室 史	 W C	研 ア ジ ア 思 想 室	準 地 域交 流支 援室	実 地 域 習 調 査 室				
英語 L L 講義室		研 英 究 語 室 学	ゼミナール 室⑩	研 国 究 語 室 学	研 講 人 究 座 文 室 共 科 ② 同 学	B 留 学 生 セ ン タ ー 教	研 国 究 文 室 学	研 考 究 古 室 学	研 日 究 本 室 史	研 中 国 究 文 化 語 室 論・ 室 学	研 国 究 文 室 学	研 西 究 洋 室 史	研 哲 究 室 学	研 地 究 理 室 学	研 空 間 情 報 科 学 室 学		
307 講 義 室	(森岡) (仙波) (原水) (東) (桑原恵) (邵) (鳥羽) (佐久間) (石田三) (豊田) (田中)																
308 講 義 室	(片山)																
 書 庫	研 数 理 科 究 室 学	研 講 人 究 座 文 室 共 科 ① 同 学	経 済 社 会 法 律 経 済 講 究 室			310 講 義 室			研 ド イ ツ 文 語 究 室 学・	研 社 ア 会 メ リ 室 化 力	心理学 第6 実教室	 W C	研 日 究 本 室 史	314 講 義 室			
研 文 化 究 人 類 室 学	研 国 究 文 室 学	研 経 資 源 究 室 学 境	309 講 義 室		研 ケ コ 異 ミ 文 究 シ ョ コ 化 室 ニ 間 室 学	研 ド イ ツ 文 語 究 室 学・	社 会 調 査 室	第 1 資 料 室 学	311 講 義 室		312 講 義 室		313 講 義 室				
(高橋)		(堤)	(眞弓)		(坂田) (今井晋)												

総合科学部 2 号 館 (A) (マルチメディア A 棟)

〔 2 階 〕

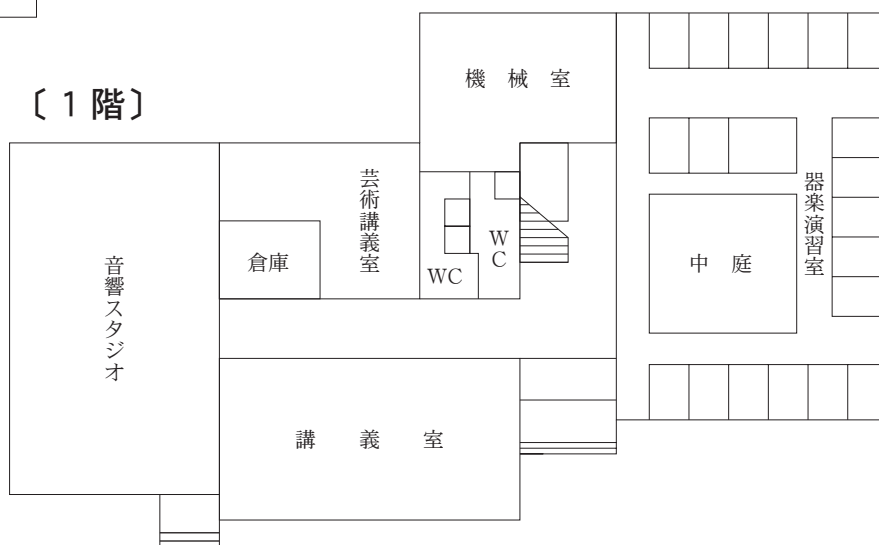
(宮澤)

(河原崎)



(片岡)

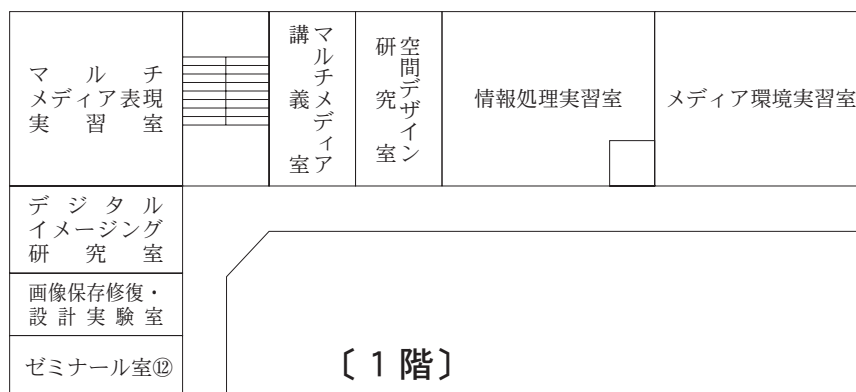
〔 1 階 〕



総合科学部 2 号 館 (B) (マルチメディア B 棟)

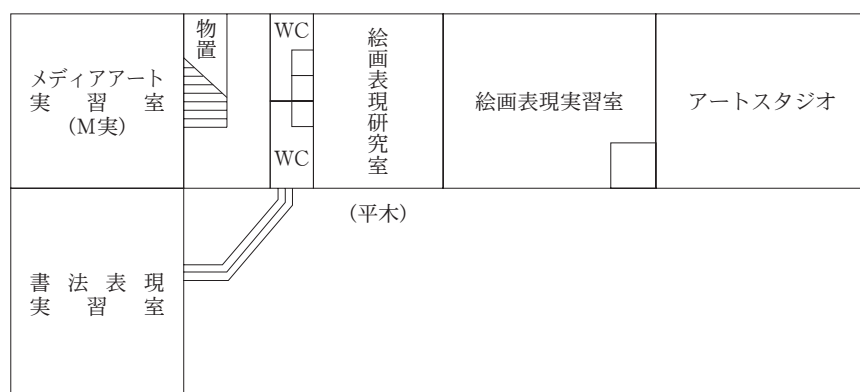
〔 2 階 〕

(掛井)



(石井健)

〔 1 階 〕



(平木)

工学部共通講義棟（K棟）

〔2階〕

	Call教室	トイレ	K 205 42 (42)	K 204 42 (42)	K 203 63 (42)
	K 206 176 (112)	EV	K 201 126 (76)	K 202 126 (76)	
		階段			

〔3階〕

	K 308 40 (40)	K 307 60 (36)	トイレ	K 306 42 (42)	K 305 42 (42)	K 304 42 (42)
	K 309 176 (112)	EV	K 301 40 (40)	K 302 84 (56)	K 303 84 (56)	
		階段				

〔4階〕

	K 406 40 (40)	K 405 60 (60)	トイレ	K 404 63 (42)	K 403 63 (42)	
	K 407 176 (112)	EV	K 401 108 (72)	K 402 126 (72)		
		階段				

工学部共通講義棟（K棟）

〔5階〕

	K506 38(38)	K505 61(61)	トイレ	K504 63(42)	K503 63(42)	
	K507 178(92)			EV	K501 108(72)	K502 126(72)
				階段		

〔6階〕

	スタジオ 315(210)	トイレ	K602 63(42)	中会議室	小会議室
			EV	K601 40(40)	大会議室
			階段		

* 全学共通教育センターロゴマーク



ロゴマークとしてパンジーの花を用いました。

パンジーの名称は、フランス語の“思う、考える”を意味するパンセに由来します。

平成 20 年 3 月に全学共通教育センターのロゴとして採用されました。